

第一次地域福祉活動計画

計画期間:平成26年4月1日から平成31年3月31日まで(5カ年計画)

平成29年度実行計画進行管理



取手市社会福祉協議会

Toride city council of social welfa

とりでYOU・Iのまち

「とりでYOU・Iプラン」の進行管理

1 目的

この方針は、「とりでYOU・Iプラン」（以下「プラン」という。）を効果的かつ効率的に推進するため、プランに基づく様々な取り組みについて検証し、継続的に改善することによりプランの円滑な進行管理に資することを目的とする。

2 進行管理の対象

(1) 行動計画の評価

- ・実施項目において、成果の評価及び今後の方向性について個別評価を行う。
- ・評価結果は、実施項目シート毎に記入する。

3 進行管理の実施体制

(1) 事業所及び担当者の役割

- ・実施項目の企画・実施にあたる担当者が、実施項目毎に成果を評価し、今後の計画の進行状況を確認・見直しをする。
- ・担当者が行った進行管理について、事業所内で共有化し評価・検討する。また、必要に応じて実施項目の担当者の評価を基に振り返りを行い、事業所としての評価としてまとめるとともに、課題を明らかにし、共通理解を図りその解決方法を検討する。
- ・行動計画の進行進捗状況について、年度内に取手市社会福祉協議会運営委員会に報告し、助言を受けることとする。
- ・助言等を受け行動計画の修正を図り、年度末にその状況等を取手市社会福祉協議会運営委員会に報告する。

4 評価の基準

(1) 成果状況の評価基準

評価区分	成果内容
5	順調に計画通り進行した
4	概ね順調だが不十分な点が少しあった
3	実施されている部分もあるが不十分な点も多い
2	既に実施予定の時期であるが、まだ取り組んでいない
1	実施方法も含め事業実施に再検討が必要であり、取り組んでいない

※年度当初に作成する、年間の事務事業執行計画に対しての成果状況とする。

5 進行管理の実施時期

(1) 成果状況評価

- ・1月中旬に（4月～3月見込み実施分）の成果状況の評価を実施する。

(2) 今後の計画の進行状況を確認・見直し

- ・年度末（1月中旬）に1回実施する。
- ・担当者及び事業所が行った評価結果について、1月の事業所連絡会議において確認・検証する。

6 進行管理の実施結果

- ・進行管理の実施結果については、取手市社会福祉協議会運営委員会及び理事会・評議員会に報告する。
- ・進行管理の実施結果については、必ず担当者が次年度担当者に引き継ぐ。

第一次地域福祉活動計画（とりでYOU・Iプラン） 平成29年度実行計画進行管理

1. 基本方針

平成29年度のYOU・Iプラン（平成26年度～平成30年度）は、「市民ひとりひとりが、その人らしく地域で安心してらせる福祉のまちづくり」を基本理念を踏まえ、4年目を迎えることから、前年度の事業の評価検証並びに事業精査の遂行を踏まえ、住民主体の地域福祉の一層の向上を目指し、行政や福祉関連の団体・事業所との密接な連携を図り、効率的・効果的な行動計画の進行管理に努めてまいりました。

2. 平成29年度の新たな取組み

●とりまち 助け合い活動 とりまち 地域みまもり活動

高齢者や障がいのある方だけでなく、地域で生活する中で、人は悩みごとや困りごとを抱えて生活しています。

そういう不安を少しでも解消するためには、地域の方々がつながり、困ったときは助けてもらったり、困っている方がいれば助けてあげたりする地域のつながりがとても大切です。

核家族化や少子高齢化が進む中、困ったときに制度やサービスでは解決できない、“ちょっと”した助けが必要なことは多々あります。

こうした高齢者や障がいのある方等の日常生活を地域の身近な方々で見守ったり、支え合ったりすることが「助けあい活動」です。

社協もハンドブックを作成し、“ちょっとよいこと”をはじめたい方々を応援しています。

●地域包括ケアシステムの構築

地域における助け合い・支えあいづくりである「地域包括システム」の構築を目的とした生活支援体制整備事業における生活支援コーディネーターの役割にを担い、行政や地域包括支援センターとともに積極的に取り組み助け合いのしくみづくりに取り組みました。

●市民後見のあり方について検討する

平成28年度に発足した「成年後見サポートセンター」は、法人後見の受任をとおして社協として後見業務の役割に務めてまいりました。本年度はさらに取手市における権利擁護事業について、「地域で支えあう仕組みづくり」に向けて、市民で市民を支える市民後見について、その養成等のあり方を検討するため、「取手市市民後見のあり方に関する検討委員会」設置し、権利擁護の推進と地域で支え合い作りの実現に向けた取り組みに務め、次年度は市民後見人養成講座等を実施し、市民後見人の育成に努めていきます。

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成29年度	
実施項目名	生活課題を抱えている人への支援	担当係		藤代支所
		担当者	職名	係長
事業開始年度	平成26年度		氏名	五十嵐玉枝
根拠法令等				
プランにおける 該当項目	行動目標	1	もっと学ぼう、知らせよう—情報の共有促進	
	行動計画	①	社会資源に関する情報の収集と提供に努めます	
現状と課題	<p>住民の生活課題は実に多様です。人によって知りたい情報も、相談する相手(機関)も違います。どのような制度や施設、公的機関、医療機関、人的資源があるのか、必要な人にもわかりにくい状況といえます。</p> <p>必要な時に必要な情報を提供できるようにするにはどうしたらいいのか、どこに聞くのがベストなのか、把握しておく必要があります。</p>			
目的 (何のために)	相談できずに困っている人、どこに何をどう聞いたらいいかわからない人を一人でも減らしていくため			
対象 (誰・何を対象に)	市民全般			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させたい のかなど)	<p>引き続き、市民の生活課題に応えられるよう、社会資源に関する情報を収集し、情報誌、ホームページ、フェイスブックなどで紹介していく。 (社協や行政等で実施している相談事業や窓口の紹介を継続して実施)</p> <p>他市町村社協や行政等のホームページや情報誌も参考にして内容の充実を図り、読みやすいものにしていく。</p>			
平成29年度 の実施状況	<p>ホームページ・情報誌・フェイスブックでの広報活動</p> <p>ホームページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各事業所の行事や研修、講演会等の告知、各種ボランティア養成講座等の参加者募集 ・きずなBOX、各種相談事業等の紹介 ・各事業所求人告知等 <p>情報誌</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア支援センター、ボランティアサークル、自治会活動、取手成年後見サポートセンター、心配ごと相談等紹介 <p>フェイスブック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各事業所でイベント、研修、事業の告知や報告、参加呼びかけ等 (各事業所発信) 			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		4月～ 3月	3	相談事業が充実してきているので、足を運んでくださる方、電話をくださる方には対応できているように感じるが、声をあげられない方への情報発信について、もう少し幅広いものが必要かと思う。	
	課題				
	幅広い世代に興味を持ってもらえるホームページや広報誌作り。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	市民の方が興味のある役立つ情報を引き続き発信していく。 写真を多用するなど、目を引くわかりやすい情報発信の仕方の工夫。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	各事業所の取り組み等を随時連携を取って発信していく。				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		30年 4月～ 31年 3月	引き続き生活課題を知るために、いろいろな所に出向いて情報を把握し、調査し、発信していく。		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
<ul style="list-style-type: none"> ・今後の方向性のところで、いろいろな所に出向くと書いてあるので、市内の高齢者施設、いきいきサロン、ボランティアセンターで活動されている団体など、生活課題を知るという認識を持ちながら訪問や交流をしたり、また協議体などに出席されている方々の意見なども、取り入れて事業を進めてください。 ・評価2となっていますが、取り組んだけれども実績を残せなかったということで、評価3にしているのではないかと考えます。 					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成29年度
実施項目名	福祉教育プログラム作成	担当係	地域支援係
		担当者	職名 係長
事業開始年度	平成26年度	氏名	小林一郎
根拠法令等			
プランにおける 該当項目	行動目標	1	もっと学ぼう知らせようー情報の共有促進
	行動計画	②	福祉教育プログラムを作ります
現状と課題	小中学校等福祉体験を実施にあたり徐々に学校ボランティアの依頼が増えているが学校によってやる内容が決まっている。様々なボランティア体験についても説明して活動につなげる。車イス、アイマスク白杖、シニア体験については依頼が多く、ボランティア講習会等に参加してもらい継続して増やしていく必要がある。		
目的 (何のために)	社協での福祉体験は一部の教員が把握し実施している状況にあるが、福祉教育プログラムを作ることで福祉体験等依頼しやすくする。福祉体験などとおしてボランティア活動への関心を高める。		
対象 (誰・何を対象に)	小中学校高校児童生徒		
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	校長会での福祉体験の内容等詳細を一覧にした冊子「やさしい心の種をまく」を配布。福祉体験ボランティアについての説明。昨年度実施したボランティア活動指定校の活動報告書を配布し、各学校での取り組みについて今後の参考にしてもらう。7月中に中学、高校へ夏休み中に活動できるボランティア活動やイベント情報を提供し生徒に周知してもらい参加を募る。8月福祉体験ボランティア養成講座を実施ボランティアへの参加を募る。		
平成29年度 の実施状況	5月校長会において社協で実施している福祉体験の内容等詳細を一覧にした冊子「やさしい心の種をまく」を配布。社協で行っている学校ボランティアの派遣等、取り組みについてを説明。7月とりで障害者協働支援ネットワークとともに市内の小中学校、高校へ訪問し、夏休み期間中のイベントやボランティア講座等の開催について説明を行った。		

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		4月～ 3月	4	今年度新たな学校での活動があり、福祉体験冊子「やさしい心の種をまく」により各学校での福祉体験の周知が広がってきている。福祉体験について各学校の担任の先生方に福祉体験の内容等認知度が上がったと予想される。	
	課題				
	車イス、アイマスク白杖、シニア体験のボランティアは徐々に増えつつあるが、福祉体験の回数が増えていくと派遣困難な状況になる。今後もボランティア育成の充実が不可欠になる。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	ボランティアについては講座開催の広報の充実、他のボランティア団体への呼びかけなど増員を図る。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	福祉体験ボランティアの車イス、アイマスク白杖、シニア体験のボランティアについてはシルバーリハビリ体操指導士の会から多く参加しているため今後も呼びかけをするとともに個人ボランティアに参加を促す。				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		30年4 月～ 31年3 月	福祉体験の定着に向け、校長会での福祉体験の内容等、詳細を一覧にした冊子「やさしい心の種をまく」を配布し、福祉体験ボランティア養成講座開催の広報をし、ボランティア育成にも力を入れる。		
	年 月 ～ 年 月				
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
各学校における年間行事として社協のボランティア体験がプログラムに組み込まれるように努力してください。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成29年度
実施項目名	趣味サークルにおける社会参加	担当係	地域支援係
		担当者	職名 係長
事業開始年度	平成26年度	氏名	小林一郎
根拠法令等			
プランにおける 該当項目	行動目標	2	支えられ、支え合おう一担い手の育成
	行動計画	①	趣味サークルを有効に活用します
現状と課題	共通の趣味活動であるフォークソングにより仲間づくりから始め、現在演奏と歌のパートに分かれ月1回の練習を行っている。昨年度よりいこいの場での演奏を実施。今年はいこいの場での演奏活動の他、施設等の訪問活動につながるようにする。		
目的 (何のために)	ボランティアの担い手不足を解消する新たな手法として、共通の趣味から仲間づくりをし、その延長線上でのボランティア活動を行えるようにする。		
対象 (誰・何を対象に)	取手市民一般		
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させたい のかなど)	月1回の勉強会を開催する。定期的に広報をして随時会員を増やし、演奏活動を積極的に行えるようにする。高齢者施設やいこいの場等での演奏活動を定着化できるよう社協も協力する。さらに新たな曲目を増やし演奏の幅が広がるようにする。		
平成29年度 の実施状況	月1回の勉強会を開催。いこいの場8月と2月に1会場ずつ演奏を実施。今年度はいこいの場のほか、ふれあいサロン井野むつみ会での演奏も実施した。		

進行 管理	成果 状況			成果状況に対する説明	
		4月～ 3月	3	いこいの場での実績もあり、演奏についても安定感が出てきた。フォークソングの世代への反響もあり、今年度もサークルの新規メンバーの増員があった。周りで歌って盛り上げるための歌のメンバーが口コミで徐々に増えている。	
	課題				
	施設等で継続して演奏を実施できるよう演奏する曲目を増やす。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	自分たちでも演奏したいものを選出した曲目も含め全体で約60曲の楽譜を用意し、練習を開始している。今後メンバーが変わらずに練習を重ね、新しい曲を増やしていく。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	現在演奏活動を行っている他の団体への呼びかけや演奏についての参加協力を要請する。				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		30年4 月～ 31年3 月	新規メンバー加入を目指し広報等で参加を募る。いこいの場のほか給食サービスやふれあいサロン、施設等での活動場所を増やせるようにする。		
	年 月 ～ 年 月				
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
趣味サークルはフォークソングの他には考えているのでしょうか。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成29年度	
実施項目名	ボランティアの新規登録増加	担当係		地域支援係
		担当者	職名	主幹
事業開始年度			氏名	廣瀬嘉子
根拠法令等				
プランにおける 該当項目	行動目標	2	支えられ、支え合おう	
	行動計画	①	趣味サークルを有効に活用します。	
現状と課題	<p>実際にボランティア活動している人の高齢化もあり活動者は減少している。ボランティアをしたいがきっかけがつかめない人、または社会問題などに関心があり活動したいと思っている人を発掘していくことが必要。市民のボランティア意識の高揚とボランティア活動への参加を推進していく。</p>			
目的 (何のために)	地域の中で身体等で困っている方も生活しやすい街を目指して、担い手となるボランティアを養成する。			
対象 (誰・何を対象に)	市内在勤在住のボランティア活動に興味のある方			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	<p>ボランティアの育成・研修を目的に下記講座を開催。ボランティアの活性化を促す。各種講座終了後、ボランティア活動につなぐ。講座開催中にボランティア活動をしてもらえる様に個人的に誘導する。講座終了後20%のボランティア登録を目指す。</p> <p>【講座内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①手話奉仕員養成講座 ②点字講習会 ③朗読ボランティア養成講座 ④絵本お話しボランティア講座 ⑤身体障害者（児）支援講座 ⑥精神保健ボランティア養成講座 ⑦福祉体験ボランティア養成講座 ⑧男性講座 ⑨男性料理教室 			
平成29年度 の実施状況	<p>9講座中、7講座が終了しました。参加者は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ②点字講習会（3名） ③朗読ボランティア養成講座（7名） ④絵本お話しボランティア講座（10名） ⑥精神保健ボランティア養成講座（5名） ⑦福祉体験ボランティア養成講座（10名） ⑧男性講座（5名） ⑨男性料理教室（20名） <p>また、①手話奉仕員養成講座（20名）は開催中です。</p> <p>⑤身体障害者（児）支援講座については3月1日からスタート予定です。</p>			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		4月～ 3月	3	各講座終了後、ボランティア活動につながった方は少数ではありますがいました。これからの開催される講座や2月で終了する講座については、特にボランティア活動につながるようにアプローチします。	
	課題				
	各講座に参加する方が、講座によっては減少しています。受講のきっかけ作りや効果的な周知方法を検討していきたいと考えています。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	講座中に受講生からのご意見を聞き、また講座終了後、アンケートを実施するなどして、志望動機などを今一度確認をする。また他市町村社会福祉協議会の講座担当者に集客の方法などの情報を収集する。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	広報とりでを担当する広報広聴課の協力をお願いする。掲載方法についても十分に工夫をしていかなければと思います。				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		30年5月 ～ 30年8月	市民への周知方法を十分に検討し、実施する。ポスター掲示も効果的と思われるので実施する。		
30年9月 ～ 30年12月		多くの受講生にボランティア活動に視野を広げて、地域活動へのきっかけ作りを行う。			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
評価2となっていますが、取り組んだけれども実績を残せなかったということで、評価3にしていのではないかと考えます。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成29年度
実施項目名	移動運転者講習会	担当係	地域支援係
		担当者	職名 主幹
事業開始年度	平成25年度	氏名	廣瀬嘉子
根拠法令等	【国土交通省認定研修（認定番号：国自旅第197号）】		
プランにおける 該当項目	行動目標	2	支えられ、支え合おう一担い手の育成
	行動計画	②	専門的なボランティア活動を促進していきます。
現状と課題	毎年移動運転者講習会は開催しているが市内3団体で行っている移動サービスの現状は、高齢化によりニーズが増える一方で、まだまだ運転ボランティアが不足しています。地域住民の方にはほんの少しの時間でも、地域福祉活動に参加することで大きな助け合いの輪に広がります。一人でも多くの参加登録を希望します。		
目的 (何のために)	市内3団体の運転ボランティアの増員を目的に講習会を開催する。		
対象 (誰・何を対象に)	68歳未満の茨城県南地域在住・在勤者（普通運転免許保持者）		
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させたいのかなど)	<p>ますます高齢化が進み、利用者が増加しボランティア不足の問題が深刻化している為、今年度は2日間の講習会を2回実施する予定。</p> <p>国土交通省の認定する講習会を2日間にわたり開催。（1開催：定員24名）</p> <p>1日目は、移動サービス概論や運転に必要な知識と心構え、リスクへの対応、セダン利用者理解等の講義を行う。</p> <p>2日目は、基礎的な接遇技術及び介助技術及び実技演習、福祉自動車の特性（演習を含む）そして、運転ドライバーによる路上運転実技、ヘルパーによるセダン利用者介助実技等を行う。</p>		
平成29年度 の実施状況	<p>今年度は特にボランティア不足が深刻な問題になっており、講習会は2回実施しました。</p> <p>第1回目は定員24名を超える申し込みがあり、キャンセル待ちになるほどでした。（受講者24名）</p> <p>第2回目は市外の方も含め14名の方にご参加いただきました。（受講者14名）</p> <p>受講後7名の方が社会福祉協議会の移送サービスに登録。</p> <p>現在4名の方が活動しており、移動困難者を支えています。</p>		

進行管理	成果状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		4月～3月	3	今年度の第1回目の時には高齢福祉課の多大な協力を頂き、毎月2回発行される「広報とりで」の5月15日号に掲載。宣伝効果が非常に高いトップページに掲載して頂いたことが、参加者増になったと思われます。移動困難な高齢者が増え続けていくので今後も市民を支えていかなければならない。	
	課題				
	今年度の受講生は60歳未満の現役で働く方が多い傾向にありました。退職してからの活動につながればと思います。今後、どのような形でアプローチしていくかが課題となります。また、どのようにして定年退職後の方がいかに地域デビューできるかを検討していくことも必要かと思ひます。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	茨城県外の移送サービス団体にドライバー登録状況を確認し、ドライバー増員の為どのような工夫をしているか調査することが必要。また、来年度も講習終了後にアンケートを実施する。知りたい要素を明確化しアンケートの内容を見直しします。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	現在、定期的に行われている移送3団体と高齢福祉課職員での打ち合わせ会議を継続的に開催し、今後の移送サービスドライバー増加についての方法を検討していく。				
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明		
		30年5月～30年8月	講習会の開催回数・日時を設定し、高齢福祉課職員とも調整し周知方法を決定する。		
	30年9月～30年12月	講習会の開催にあたる講師依頼などの準備を進め、広報活動にも工夫を凝らす。運転講習会(全2日)の開催。			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
平成30年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成29年度	
実施項目名	災害ボランティア育成	担当係		地域支援係
		担当者	職名	係長
事業開始年度	平成26年度		氏名	小林一郎
根拠法令等				
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実	
	行動計画	①	緊急支援できるボランティアを組織化します	
現状と課題	いつ起こるかわからない災害時の対策について地域との連携、組織化がされてなく緊急時の対応に難しい状況にある。平時より防災に関する知識や地域の自主防災会との連携が取れるよう関係作りが必要。			
目的 (何のために)	災害時ボランティアセンターを立ち上げた時に協力をしてもらおうボランティアを平時より育成し有事の際に迅速に対応できる組織づくりをする。			
対象 (誰・何を対象に)	取手市民一般			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた いのかなど)	9月に災害の知識と災害支援について学習する防災ボランティア養成研修会を開催。防災意識を高め、地域での防災訓練等への参加にがるよう、地域防災についても考えるきっかけになるようにする。また、災害ボランティアに登録している方へも研修会の参加案内もし、フォローアップの一環として参加してもらい、継続して意識向上を促す。			
平成29年度 の実施状況	10月県社協に登録している防災ボランティアと市民を対象として防災ボランティア研修会を開催。元静岡県地震防災センター職員片井氏を講師に近年における降雨災害や土砂災害の講義と広域のDIG(災害図上訓練)を実施。小貝川が決壊したことを想定して実際の被害状況を予想して図上で危険個所や避難所等の確認する作業を行った。また、中央タウン、桜が丘地区の防災訓練に参加し、地域の防災に関する状況を視察した。			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		4月～ 3月	3	防災ボランティア研修会では災害図上訓練(D I G)を体験し、参加者に、災害時の対応に関する知識、備えについて考えるきっかけになった。今回自主防災会からの参加もあり、地域に帰ってからの防災対策など参考にもなったと思われる。今後参加者が自分たちの地域で研修会を行うことができれば、より身近な問題として多くの方が防災に関する意識が高まる。今年度は天候により防災訓練が中止になった地区があったが来年度も継続して参加できるようにしたい。	
	課題				
	常総での水害があったためか昨年、一昨年と参加者は多かったが今年は少なくなってしまった。多くの方に参加いただけるような研修会を実施できるようにする。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	今年度の研修会は午前中が講義、実習を午後からと1日の研修にしてしまったのも参加者減少の要因としてあるため午後のみで集中して行えるものにする、また、内容もより充実したもので行う。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	地域の自主防災会への社協開催の研修会参加の要請や防災訓練での車イス講習会実施など協力関係の構築。防災について社協との関係性がより身近になるよう努める。				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		30年4 月～ 31年3 月	防災ボランティア研修会の開催。県社協の防災ボランティアのフォローアップ研修も開催し災害に関する啓蒙啓発活動を引き続き行う。また、防災訓練にも積極的に参加し、地域との連携を図る。		
	年 月 ～ 年 月				
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
平成30年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成29年度		
実施項目名	見守りの輪作り		担当係		藤代支所
			担当者	職名	係長
事業開始年度	平成26年度			氏名	五十嵐玉枝
根拠法令等					
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実		
	行動計画	②	みんなで守る意識を高めます		
現状と課題	旧藤代地区も住民の関係が希薄になっており、何もサービスや事業が入っていない認知症の方の徘徊などが多くなってきています。				
目的 (何のために)	認知症の徘徊の方の早い発見や、虐待などの発見、孤独死の防止				
対象 (誰・何を対象に)	市民全般（主に藤代地区）				
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させたいのかなど)	<p>市内でセブンイレブンさん始め見守り活動体制ができてきているので、引き続き市民の方に認知症対策-養成講座などを紹介し、対象者に積極的な声かけや見回りをしてもらうようにする。</p> <p>藤代地区地域包括支援センターなごみの郷さんや民生委員・児童委員の方々などと情報の共有をしていく。 （5月・10月のフリーマーケット開催時に地域包括支援センターなごみの郷のご協力を得て、介護相談コーナーを設ける。）</p>				
平成29年度 の実施状況	<p>地域包括支援センター藤代なごみの郷との情報交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月のフリーマーケット開催時になごみの郷さんに参加していただき、来場者の血圧測定や相談にのっていただいた。宅配クック123さんにもなごみの郷さんが声をかけてくださり、試食コーナーを開設、好評だった。 ・在宅福祉サービス協力会員定例会に出席していただき、認知症の方の対応の仕方や、会員の地域の情報を聞き、調査をしてくださった。 ・徘徊している方の情報を共有したり、民生委員さんからの情報をつないだ。 ・徘徊はしていないが、認知症が疑われる方の家に訪問していただいた。 				

進行 管理	成果状況評価		成果状況に対する説明	
	成果 状況	4月～ 3月	3	地域包括支援センターなごみの郷さんに情報をつないでいる状態で、藤代支所 独自では協力者を増やせていない。 一時保護していただけるお店なども、独自では見つかっていない。
	課題			
	見守り、声かけ、保護などをしてくださるボランティアや協力者を増やせていない。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	認知症講座などの情報発信、参加依頼。 認知症の方を受け入れてくださっているふれあいサロンなどへの、ボランティア希望者の見学や参加 をお願いする。 認知症カフェなどの紹介。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	地域包括支援センター、高齢福祉課、ヘルパー事業所、民生委員、介護家族の会、ボランティア等と の連携強化、情報共有。講座や研修などを教えていただく。 既存のボランティア団体でも受け入れてくれる行事などが無い、引き続き探す。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		H30年 4月 ～ H31年 3月	引き続き、一時保護していただけるお店や個人のお宅を探す。 家に引きこもりがちな高齢者の情報も、民生委員さんや地域包括支援センターさんと 共有する。	
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
<ul style="list-style-type: none"> ・評価2となっていますが、取り組んだけれども実績を残せなかったということで、評価3にしてい いのではないかと考えます。 ・平成30年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。 				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成29年度	
実施項目名	相談支援事業	担当係		生活支援係
		担当者	職名	相談支援専門員
事業開始年度	平成25年12月から		氏名	佐藤晶彦
根拠法令等	障害者総合支援法			
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう一福祉サービスの充実	
	行動計画	②	一人で抱え込まないための相談支援活動の充実	
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ■利用者に対して、ニーズの聞き取り、計画の作成等に多くの時間を要する。関係機関との連携、各事業所の担当者の協力を得ながらスムーズに取り組めるような配慮が必要。 ■相談支援専門員の社会資源情報の不足。 ■適切なプランニングにおける相談支援専門員の専門性、資質向上。 			
目的 (何のために)	<ul style="list-style-type: none"> ■障害福祉サービスの利用を希望される方に対し、個々のニーズに合った総合的な援助や、解決すべき課題を踏まえ、最適なサービスのプランニング、モニタリングをおこなう。障害者やその家族の生活支援に関する相談に応じ、関係機関との連携を密にとり、住み慣れた地域において生活できる体制をつくる。 			
対象 (誰・何を対象に)	<ul style="list-style-type: none"> ■障害者総合支援法の計画相談支援の対象者 ○取手市在住の方で、障害福祉サービスを申請した障害者又は障害児であって、市町村がサービス等利用計画の提出を求めた方。 			
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	<ul style="list-style-type: none"> ■事業の効率化 ○相談支援専門員の専門性、資質の向上（他事業所との意見交換会、事例検討）。 ○自立支援協議会等、専門研修への参加（定期的に参加 年4回程度）。 ■利用者への支援 ○障害福祉課、子育て支援課、こども発達センター、特別支援学校との連携、他事業所との情報交換を定期的におこなう（随時）。 ○定期的なモニタリングを実施することで利用者の状態確認をおこなう（随時）。 ○必要に応じてサービス担当者会議を開催し情報の共有を図る（随時）。 ○新規事業所への見学をおこなう（随時）。 ○児童計画において、保護者と関係性を築きながら、今後の方向性を関連機関と連携を図り、保護者と共に考えていく（随時）。 			
平成29年度 の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ■事業の効率化 ○相談支援援助業務担当者研修の参加。 ○他事業所との連携、情報共有を図ることができた。また、相談支援部会等において、他事業所の計画内容の確認、連携、情報共有、意見交換を行うことができた。 ■利用者への支援 ○障害福祉課、子育て支援課、こども発達センター、特別支援学校、市内小学校、他事業所、児童相談所等との情報共有、意見交換をおこない、利用者への支援において連携して取り組むことができた。 ○モニタリングを定期的におこなうことで、利用者の状況確認をおこなうことができた。 ○困難ケース等において、必要な場合に担当者会議を開催し、利用者、ご家族への支援において関係機関との連携を図ることができた。 ○新規事業所への見学においては随時おこなうことができた。 ○計画において、保護者からの要望に答えながら、関係機関と連携を取りながら、適切な提案を提示することができた。 			

進行管理	成果状況評価		成果状況に対する説明
	成果状況	4月～3月	3
	課題		
	<p>困難ケースも増えてきており、他事業所との連携、対応できる知識、人脈、社会資源の開発が今後にも必要になる。ただ、保護者と本人との意見が違うなどのことから、中々先に進まないことがあり、難しさを感じるケースがでてきている。児童計画についても同様、家庭環境が複雑なケースがあり、より多くの関係機関との連携が必要と思われる。</p>		
	課題解決のための改善内容・取り組み方針		
	<p>時間を有効に使っていく必要がある。電話対応での状態の確認、支援施設での様子等定期的におこなっていく。また、相談支援事業所だけで進めていくのは困難なため、多くの関係機関との連携、相談を随時おこなっていく。また、新たにできた事業所への見学も随時おこなっていく。</p>		
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)		
	<p>様々な事例に対応していけるよう、支援員の知識向上(専門別研修会への参加、意見交換会等への参加、福祉情報への関心)、他事業所等との連携をおこなっていく。</p>		
	期間		今後の方向性の説明
	今後の方向性	30年4月～30年9月	相談支援員の専門性を高めていく必要がある。他事業所がおこなう情報交換会、自立支援協議会、相談支援部会への参加をしていく。情報収集として、常に最新の情報を確保していく。
今後の方向性	30年10月～31年3月	相談支援員の専門性を高めていく必要がある。他事業所がおこなう情報交換会、自立支援協議会、相談支援部会への参加をしていく。情報収集として、常に最新の情報を確保していく。定期的な研修を含め社会資源の開発を視野に入れていく。	
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見			
<p>平成30年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。</p>			

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度		平成29年度	
実施項目名	生活困窮者自立相談支援事業（取手市委託）	担当係		生活支援係	
		担当者	職名	主幹	
事業開始年度	平成27年度		氏名	菊地裕之	
根拠法令等	生活困窮者自立支援法（平成25年法律第105号）				
プランにおける該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう——福祉サービスの充実		
	行動計画	②	一人で抱え込まないための相談支援活動の充実		
現状と課題	<p>生活困窮者自立相談支援事業は、生活困窮者が困窮した生活から自立することを目的としている。生活は困窮しているが、どこへ相談したらよいかわからない、問題解決のための情報を持っていないなどの状況にある者が、その生活上の課題を解決するときのひとつの手段として、生活困窮者自立相談支援事業を利用することができる。しかし、相談内容がさまざまであるため、相談者の問題解決が当事業機関の相談だけでは難しい場合があり、地域の他の機関との連携による問題解決をおこなっていく必要がある。また、相談者のなかには所得が不十分なために困窮している者がいる。ハローワークでは生活保護等自立就労支援として市への巡回相談も実施しており、当相談事業を窓口とした生活保護等自立就労支援の活用による経済的困窮の解決も可能である。子どもの将来が、生まれ育った環境の影響を受けることが多く、子どもの貧困対策は重要である。生活困窮者自立支援法においても学習支援事業を任意事業として位置づけている。社会福祉協議会では市より委託を受けて、平成28年度より学習支援事業を実施しており、今年度も継続して困窮世帯の子どもの学習の機会と居場所作りを取り組んでいく。</p>				
目的 (何のために)	<p>相談支援では相談内容が多岐にわたるため、相談者の課題に早期かつ包括的に対応するために他機関との連携や知識の取得が必要となる。また、就労等のニーズを精査しながら就労支援についても積極的に取り組んでいき自立を図る。 学習支援事業が28年度より始まり、こども達の学習の向上と居場所の場となるよう環境づくりが求められる。学習支援アドバイザーを確保するとともに対象世帯へのアプローチ等も検討しながらアドバイザーと共に良い支援を子どもに提供する必要がある。</p>				
対象 (誰・何を対象に)	相談者				
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	<ul style="list-style-type: none"> ・多岐にわたる相談対応のためのOJT研修やSDS等を通じて職員の知識習得や資質の向上 ・ハローワークの生活保護等自立就労支援事業を利用する相談者を年間6人以上とする。（昨年利用件数は2件） ・学習支援事業を継続的に実施していき居場所づくりの定着化を図るため、対象世帯へのアプローチやレクリエーション等でコミュニケーションを図り、利用者へのサポートを強化する。（年2回レクリエーション開催、年2回アドバイザー会議） 				
平成29年度 の実施状況	<p>多様化する相談に対して相談支援における専門的な研修を受講し、知識取得や資質向上に努めた。 ハローワークで実施している生活保護等自立就労支援事業については、12月までに6名利用している。障害者に対する就労支援においても、相談者に対して関係機関と連携を図りながら取り組んだ。 障害者の就労についてもハローワークに繋ぎ一般就労へと繋がった。 学習支援事業は学習支援アドバイザーを確保し、週1回実施した。レクリエーションの機会も年に2回、アドバイザー会議については12月までに1回実施し居場所づくりの定着化に努めた。</p>				

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明		
		4月～ 3月	3	<p>多岐にわたる相談対応のため、生活困窮者相談支援事業所を対象とした人材養成研修などを受講し、資質向上に努めた。また、全国各地の関係機関と意見交換を行い、地域特性にあった支援方法などを学ぶとともに連携も図った。</p> <p>ハローワークで実施している生活保護等自立就労支援事業については、12月までに昨年度2名に対して、今年度は6名利用して1名一般就労に至った。障害者に対する就労支援においても関係機関と連携を図り、就労に至った。</p> <p>学習支援事業は週1回実施した。利用者がやりたい教科を自己学習し、アドバイザーに個別指導を求める方法で実施した。1回平均3人が利用している。年2回実施したレクリエーション（野菜収穫・クリスマス会）では保護者等の参加もあり、利用者やアドバイザーとの交流する機会となった。</p>		
		課題				<p>相談支援では他の支援機関と積極的に関わり、多様化する相談内容に対して対応できる体制づくりを強化する必要がある。障害者への就労支援についても関係機関と連携を図り、柔軟に対応できるよう取り組むこと及び相談窓口の周知に努める。</p> <p>学習支援事業は、学力向上とともに居場所となれる環境づくりを図るため、学習支援アドバイザーの確保と支援体制の強化を図る必要がある。</p>
	課題解決のための改善内容・取り組み方針					
	<p>相談支援では、研修などを通じて職員の資質向上を図るとともに、他の支援機関との連携を強化して対応力の向上を図る。障害者への就労支援においても同様に体制強化を図る。</p> <p>学習支援事業については、学習支援アドバイザーや関係各課との会議を設ける。</p>					
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)					
	期間		今後の方向性の説明			
	30年4月 ～ 31年3月		<p>相談支援では研修やSDSを通じて職員の質を高めるとともに他機関との連携を図る。また、障害者の就労支援対応のため関係機関と連携を図り、柔軟な対応をする。</p> <p>学習支援では保護者・こども・アドバイザーと連携を図り、有効な学習支援につなげるため、キーパーソンとなっているアドバイザーと関係各課との連携会議を年2回以上実施する。</p>			
	取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
平成30年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。						

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成29年度	
実施項目名	取手市成年後見サポートセンター	担当係		生活支援係
		担当者	職名	主事
事業開始年度	平成28年度		氏名	安田理恵
根拠法令等	民法			
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう——福祉サービスの充実	
	行動計画	②	一人で抱え込まないための相談支援活動の充実	
現状と課題	<p>私たちが日常生活を営む中では、商品購入や社会福祉サービス利用、財産処分など、さまざまな場面において契約行為が行われ、これらの契約によって日常生活が成立しているような状況です。そのため、判断能力に要支援課題が生じ契約行為を行うことができなくなった場合、日常生活に困難やトラブルが生じ、重大な不利益を被ることになってしまいます。</p>			
目的 (何のために)	<p>判断能力に要支援課題が生じた人の自立生活の実現に向けた対応として、日常生活自立支援事業や成年後見制度を有機的につなげたシステムを構築するとともに、地域住民の参画・協働を受けながら総合的な支援体制を構築するものです。 また、地域での生活を身近な市民が支える仕組みづくりを検討するものです。</p>			
対象 (誰・何を対象に)	市民全般			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた いのかなど)	<ul style="list-style-type: none"> ●成年後見制度利用相談事業 <ul style="list-style-type: none"> ・職員の専門性と倫理観を高め、多様な相談ニーズに対応できるよう研修等を通してスキルアップを図る。 ・関係機関と情報共有や意見交換を行い、連携・協力しながら適切に制度利用を支援する。 ●成年後見制度啓発事業 <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関へのパンフレットの設置や広報誌や社会福祉協議会ホームページ上へ掲載し、広報啓発活動を努める。 ・権利擁護に関するしくみや制度の講演会を実施する。 ●日常生活自立支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービス利用援助、日常的金銭管理について、相談・助言しながら自立した生活を送れるように生活支援員や関係機関と連携を密にしながら支援する。 ●成年後見制度法人後見受任事業 <ul style="list-style-type: none"> ・法定後見開始の審判を受けた被後見人等に対する身上監護及び財産管理を適切に遂行する。 ●取手市市民後見のあり方に関する検討委員会開催 <ul style="list-style-type: none"> ・市民後見のあり方に関すること。市民後見人の養成に関すること等。 			
平成29年度 の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ●成年後見制度利用相談事業 <ul style="list-style-type: none"> ・相談援助件数 105 件 (平成29年12月末現在) <li style="padding-left: 40px;">うち新規相談 40 件 <li style="padding-left: 40px;">継続相談・援助 65 件 ・成年後見制度及び日常生活自立支援事業に関わる研修やセミナー、連絡会議に出席。 ●成年後見制度啓発事業 <ul style="list-style-type: none"> ・各地域包括支援センター等の関係機関にパンフレットを10～20部ずつ配布。 ・市内福祉事業所、市民後見人養成講座、民生委員協議会研修内にて成年後見制度及び日常生活自立支援事業の制度説明を実施(9月、10月、11月)。 ・成年後見制度に関する講演会を実施(2月)。 ●日常生活自立支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ・契約者 20名 (平成29年12月末現在) ●成年後見制度法人後見受任事業 <ul style="list-style-type: none"> ・現受任件数 4件 ・終了件数 2件 ●取手市市民後見のあり方に関する検討委員会開催 <ul style="list-style-type: none"> ・全4回(7月、8月、10月、1月)の検討委員会を実施。 			

進行管理	成果状況評価		成果状況に対する説明
	4月～3月	3	センター開設から2年となり、昨年度に比べ相談件数や受任件数は増加。平成29年度は、市民で市民を支える市民後見について、その養成等のあり方を検討するため「取手市市民後見のあり方に関する検討委員会」を設置し、権利擁護の推進と地域で支え合い作りの実現に向けた取り組みに務めた。
	課題		
	日常生活自立支援事業及び成年後見制度を必要としている市民が増加しており、当事者に複雑な課題があるニーズや当事者の家族や周辺のニーズも複雑な課題が付随しているケースも増えている。		
	課題解決のための改善内容・取り組み方針		
	<p>①包括的な権利擁護相談・支援機能の充実 ⇒権利擁護に関する包括的な相談・支援機能を確立するため、弁護士、司法書士等法律専門家との連携体制を整備するとともに、成年後見制度の利用者支援はもとより、申立支援や親族後見人への支援の充実を図る必要がある。</p> <p>②成年後見制度の積極的な活用のための普及啓発 ⇒権利擁護の必要性を理解した市民を増やし、地域ぐるみで市民の一人一人の権利を守る土壌を作るため、高齢者や障がいを持つ方等の権利擁護への理解者、協力者を市内全域で発掘、養成する必要がある。</p>		
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)		
	<p>関係各機関等の連携体制（権利擁護ネットワーク）の構築 ⇒高齢者や障がいを持つ方を支援する各事業所など市民の権利擁護を実践している関係各機関は、困難な事案への対応や福祉のまちづくりに向けた連携体制（権利擁護ネットワーク）を構築する。また、これらの連携によって成年後見制度の新たなニーズの把握や親族後見人等支援を行う必要性も今後は考えられる。</p>		
	期間		今後の方向性の説明
	30年4月～31年3月	<p>行政や関係機関、住民組織などと連携によって、当事者の多様な複合的な課題に対応する総合的な支援の体制づくりを進めていく必要がある。これまで築いてきた地域福祉の推進に向けたネットワークをさらに強化し、それらを活かした支援を行うことが一層求められると思われる。</p> <p>また、市民後見人養成講座等を「NPO法人とりで市民後見の会」と連携を図り市民後見人育成に努める。</p>	
年 月 ～ 年 月			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見			
成年後見制度については、関心がある市民が増えてきていると思われるので周知とともに、市民後見人養成の取り組みについては、積極的に推進してください。			

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度		平成29年度			
実施項目名	地域清掃活動による、福祉センターふじしろ広報活動			担当係		障害者福祉センターふじしろ	
				担当者	職名		主事
事業開始年度	平成27年度				氏名		平嶋浩司
根拠法令等							
プランにおける該当項目	行動目標		3		いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実		
	行動計画		②-(2)		みんなで守る意識を高めます		
現状と課題		取手市全体だけでなく、藤代地区においても障害者福祉センターふじしろの認知度が低い。福祉センターふじしろの場所、存在の認識がないため、利用者への関心も低く、地域住民の福祉活動への参加を推進できていない。					
目的 (何のために)		地域福祉活動を推進していく上で、地域の中にどのような福祉施設があり、様々な人々が生活していることを福祉センターふじしろの広報活動を通して発信し、地域住民の皆さんに認知してもらおう。					
対象 (誰・何を対象に)		福祉センターふじしろ利用者と職員が地域住民の皆さんを対象に活動					
事業・業務の具体的内容等 (何を・いつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど)		毎月第二、第三火曜の午後二時から行っているクラブ活動内において運動クラブに所属している利用者と、市内を散歩しながら路上のクリーンナップ活動に取り組む。 その際には、福祉センターふじしろを周知してもらうために利用者・職員が揃いのウェア（紫色のビブス）を着用し、活動。 毎年7月第二土曜の午前中に開催される「鬼怒川・小貝川クリーン大作戦」に福祉センターふじしろとして参加。					
平成29年度の実施状況		<ul style="list-style-type: none"> ・第二、第三火曜のクラブ活動内（運動クラブ）において、安全面、天候に考慮しながらセンターふじしろ近隣道路を中心に路上清掃活動を実施。 ・平成29年7月8日（土）に開催された「鬼怒川・小貝川クリーン大作戦」参加。 ・取手市がおこなう「取手市公共施設里親制度」に参加。 					

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明		
		4月～3 月	4	今年度より「取手市公共施設里親制度」に参加し、現在、相馬南公民館にて年6回清掃活動を実施している。 年4回の活動実績によって、相馬南公民館内に表示板（里親・センターふじしろ）設置が可能のため、申請予定。		
	課題					
	継続した活動によって、障害者福祉センターふじしろの地域における認識度の向上につながるため、様々な利用者が参加し活動できるよう清掃作業の見直しが必要。					
	課題解決のための改善内容・取り組み方針					
	活動場所が増え、活動内容も変化してきたので、参加する様々な利用者の安全面、適正を考慮した活動見直しを適宜おこなっていく。					
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明			
		30年4月 ～ 31年3月	清掃活動だけでなく、地域イベントの参加・開催、共生型地域交流拠点の運営を含めたすべての活動が、障害者福祉センターふじしろの広報活動につながるため、適宜見直ししながら継続した活動を実施していく。			
	取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
平成30年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。						

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成29年度																						
実施項目名	発達相談事業	担当係		取手市立こども発達センター																					
		担当者	職名	児童発達支援管理責任者																					
事業開始年度	平成26年度		氏名	宮崎江美子																					
根拠法令等	児童福祉法																								
プランにおける該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう——福祉サービスの充実																						
	行動計画	②	ニーズを早く解決する仕組みをつくります																						
現状と課題	<p>■現状：当センターを利用するための相談、就学について、医療・病院紹介について、幼稚園・保育所（園）・学校生活について、家庭・家族・兄弟・本人について、など、あらゆる相談に対して支援を行なっている。相談員としては当センター所属の相談支援専門員である社会福祉士や小児科医、保育士、または市障害福祉課発達支援専門員が対応している。</p> <p>■課題：保護者の相談内容に応じたお子様に対する療育指導が十分に提供出来ない場合がある。それを関係機関と連携しどう克服するかが課題である。</p>																								
目的（何のために）	■当センターに関係するお子様が保護者の適切な管理の下、充実した生活を送り、将来に向けて十分な療育が受けられることを目的とする。																								
対象（誰・何を対象に）	■市内在住で当センターに関係するお子様とその保護者を対象としている。																								
事業・業務の具体的内容等（何をいつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど）	<p>■事業の内容については、上記現状のとおり、職員が窓口となり相談支援の体制をとっている。相談の内容に応じ、市教育委員会、障害福祉課、子育て支援課、保健センター等福祉関係部所、病院、学校等の関係各所と連携を取り対応していく。</p> <p>■平成27年度11月から発達障害に詳しい小児科医を招いて隔月（奇数月）において医療を開始した。平成29年度も同じ形態で医療相談を行い、相談者の要望に応じその数値目標を年間15件以上とする。</p> <p>■上記課題に挙げた保護者の理由でお子様が十分な療育が受けられないことのないよう、関係機関と連携の上、センター側から積極的に働きかけていく。</p> <p>■発達相談事業については、保護者のメンタルケアを含めこども発達センター運営の重要な部分を</p>																								
平成29年度の実施状況	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">相談の種類</th> <th style="width: 20%;">担当者</th> <th style="width: 65%;">相談内容及び件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受里面接</td> <td>市障害福祉課職員 発達センター相談員</td> <td>4月～12月80件、1月7件予定、2月～3月調整中。 保健センターで行う健診の際に、発達に心配のあるお子様に対して保健師より紹介を受けた方や幼稚園などの集団生活の中で行動が気になるお子様が担任の先生から紹介され発達センターにて面接を実施。その後、療育指導に繋げていく。</td> </tr> <tr> <td>発達相談</td> <td>発達センター相談員</td> <td>4月～12月179件 生活面、療育手帳取得等について対応。</td> </tr> <tr> <td>医療相談</td> <td>発達センター小児科医</td> <td>隔月（奇数月）実施。平成30年3月まで予約を受け24件対応。</td> </tr> <tr> <td>就学相談</td> <td>発達センター相談員</td> <td>年長児71名中56件相談済。教育委員会へ引き継いだ。</td> </tr> <tr> <td>家庭連携</td> <td>発達センター職員 保育士、相談員 作業療法士、心理士</td> <td>4月～12月45件（内、小学生対応2件延べ4回実施。） お子様の通う幼稚園、保育所（園）などの集団生活の様子を観察し、保護者へ報告をするサービス。必要に応じて支援者会議を設け情報の共有を行う。支援者会議は10件実施。</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>発達センター相談員</td> <td>小学生26件、中学生1件 教育委員会へ引き継いだ。</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ダウン症のお子様を持つ親の会の集まりである「たんぼぼ」の会合を継続して開き、育児相談や就学相談を行った。また外部より先輩の保護者を招き、アドバイスをいただく機会を設けた。（12回/年）</p>				相談の種類	担当者	相談内容及び件数	受里面接	市障害福祉課職員 発達センター相談員	4月～12月80件、1月7件予定、2月～3月調整中。 保健センターで行う健診の際に、発達に心配のあるお子様に対して保健師より紹介を受けた方や幼稚園などの集団生活の中で行動が気になるお子様が担任の先生から紹介され発達センターにて面接を実施。その後、療育指導に繋げていく。	発達相談	発達センター相談員	4月～12月179件 生活面、療育手帳取得等について対応。	医療相談	発達センター小児科医	隔月（奇数月）実施。平成30年3月まで予約を受け24件対応。	就学相談	発達センター相談員	年長児71名中56件相談済。教育委員会へ引き継いだ。	家庭連携	発達センター職員 保育士、相談員 作業療法士、心理士	4月～12月45件（内、小学生対応2件延べ4回実施。） お子様の通う幼稚園、保育所（園）などの集団生活の様子を観察し、保護者へ報告をするサービス。必要に応じて支援者会議を設け情報の共有を行う。支援者会議は10件実施。	その他	発達センター相談員	小学生26件、中学生1件 教育委員会へ引き継いだ。
相談の種類	担当者	相談内容及び件数																							
受里面接	市障害福祉課職員 発達センター相談員	4月～12月80件、1月7件予定、2月～3月調整中。 保健センターで行う健診の際に、発達に心配のあるお子様に対して保健師より紹介を受けた方や幼稚園などの集団生活の中で行動が気になるお子様が担任の先生から紹介され発達センターにて面接を実施。その後、療育指導に繋げていく。																							
発達相談	発達センター相談員	4月～12月179件 生活面、療育手帳取得等について対応。																							
医療相談	発達センター小児科医	隔月（奇数月）実施。平成30年3月まで予約を受け24件対応。																							
就学相談	発達センター相談員	年長児71名中56件相談済。教育委員会へ引き継いだ。																							
家庭連携	発達センター職員 保育士、相談員 作業療法士、心理士	4月～12月45件（内、小学生対応2件延べ4回実施。） お子様の通う幼稚園、保育所（園）などの集団生活の様子を観察し、保護者へ報告をするサービス。必要に応じて支援者会議を設け情報の共有を行う。支援者会議は10件実施。																							
その他	発達センター相談員	小学生26件、中学生1件 教育委員会へ引き継いだ。																							

進行管理	成果状況	4月～3月	4	成果状況に対する説明	
				<p>■ 随時、事業所内で相談に応じ、保護者の多様なニーズに対応できるよう、相談員の研修参加を積極的に実施した。また、保護者のメンタルケアを含むアフターフォローも心がけ、相談支援の充実を図った。また、切れ目ない療育指導が行えるよう関係機関との連携を行った。</p>	
	課題				
	<p>■ 発達センター利用に向けて受理面接の後、直ちに療育指導、サービスの提供に繋がらないお子様の対応について。 ■ 就学に関しては保護者にとって重要な部分を占めている。今後教育委員会との連携を今以上にとることが必要である。</p>				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	<p>■ 市障害福祉課職員、児童発達支援管理責任者、相談員、専門職員等でお子様一人ひとりに必要な指導内容を検討し、サービスを提供しているが、サービス提供に至らない場合の対応策として、巡回指導や発達検査を勧め経過観察を行っている。また今後、新規事業として「保育所等訪問事業」の実施を検討していく。また就学については、定期的に行われる教育委員会支援者会議に参加し新しい情報を収集していく。</p>				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	<p>■ 市教育委員会、保健センター、障害福祉課等関係機関との連携を密にし、情報を共有しスムーズに相談支援から療育指導に繋がるように進めていく。</p>				
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明		
		29年4月～29年9月	<p>■ 毎月1回、市障害福祉課との連絡会を実施しながら、状況確認を行い受理面接を実施する。 ■ お子様の日常生活での心配ごとや療育に関することなど保護者の相談に、丁寧に対応していく。 ■ 相談業務の中でも特に希望の多い医療相談と就学相談の充実を図る。</p>		
	29年10月～30年3月	<p>■ 基本的には前期と同様の方向性となるが、将来医療相談の実施回数を増やし充実させることを考える。また就学については、定期的に行われる市教育委員会主催の専門家（小児科、精神科医、市内小中学校支援学級担当教諭、特別支援学校教諭、発達専門相談員）による支援者会議に出席し、事例の研究を行い相談業務の充実を図る。</p>			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
平成30年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度		平成29年度	
実施項目名	愛の定期便活動を通しての見守りネットワークづくり			担当係	取手ヘルパーステーション
				担当者	職名
事業開始年度	平成26年度			氏名	中嶋真紀江
根拠法令等					
プランにおける該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実		
	行動計画	②	見守り助け合いネットワークづくり努めます。		
現状と課題	<p>少子高齢化や核家族化が進行し、独居の方や高齢者世帯の方が多くなっています。近隣関係が希薄になってきており、孤独死の増加が懸念されます。取手市社会福祉協議会では取手市からの委託事業である「取手市ひとり暮らし高齢者「愛の定期便」事業」を行っています。市が指定するひとり暮らし高齢者宅を訪問して、乳酸飲料を配布して安否の確認をしています。申請された方への事業の為、介護や人との関わりを拒否される方の安否確認を今後どのようにしていくかが課題になっています。</p>				
目的 (何のために)	<p>愛の定期便事業を通して、利用者の健康の保持及び孤独感の解消を図り、利用者以外の方でも異変等を早期に発見する事ができ、迅速に対応できるような地域の状況把握、ネットワークづくりを目的とする。</p>				
対象 (誰・何を対象に)	<p>取手市在住のひとり暮らし高齢者の方を対象とする。</p>				
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど)	<ul style="list-style-type: none"> ・乳酸飲料（ヤクルト）を配布しながら、安否確認を行う。 月曜、水曜⇒ヤクルトさん（井野センター、戸頭センター） 金曜⇒取手市社会福祉協議会 ・愛の定期便訪問時に本人の健康状態を観察し、不安や心配な事を傾聴しながら、近所の方などの異変や気になる事なども情報収集できるような関係を作っていく。また、訪問時に高齢者に係る事件等の情報提供を行い、注意を呼びかけるようにしていく。 ・訪問先のご近所の方にも積極的に挨拶や声かけを行い、訪問活動をしている際に徘徊等の異変を感じたら早期に対応できるようにしていく。 ・ヤクルトさんや社協での見守りだけでは不十分の為、地域住民、民生委員さんやボランティアの方とも連携をとりながら、愛の定期便事業を通して、地域住民同士で見守りができるようなネットワーク構築を目指していく。 				
平成29年度 の実施状況	<p>12月中旬に、ヤクルトさんから、「利用者宅に訪問したところ、いつもと様子が違っており、怪我をして、畳に横になっていた。」と連絡があった。高齢福祉課へ報告し、ご家族に連絡を取ってもらい対応をお願いした。ご家族が訪問したところ、体調悪化の為、救急搬送され、入院となった。愛の定期便の活動中に、ご本人の話を傾聴し、本人や近所での異変等に気がついた時は、高齢福祉課や緊急連絡先に連絡を取り、必要な対応をお願いすることができた。ヤクルトさんとヘルパーとの連携を密にすることで、情報収集を行い、必要があれば関係機関に連絡を取るなどの体制はできている。</p>				

進行管理	成果状況評価		成果状況に対する説明
	成果状況	4月～3月	3
	課題		
	<p>愛の定期便活動を通して、訪問先以外にも声かけや挨拶を行うことで、情報収集ができ、必要があれば高齢福祉課へ連絡を取り、その後の対応をお願いした。近隣の方から声をかけられ、入院等の情報を得られることもあった。</p>		
	課題解決のための改善内容・取り組み方針		
	<p>独居の高齢者世帯が増加し、認知症の方の対策もこれから進んでいく中で、愛の定期便活動だけでは見守りは不十分であり、更に充実したネットワークを構築する為に、多職種や専門機関との協力や、地域住民同士の見守り意識を高めていく必要がある。</p>		
	<p>平成29年4月から取手と藤代の事業所が統合し、広範囲の見守りではあるが、地域住民の方へ周知してもらえるように、今後も積極的に愛の定期便活動を進めていく。その中で、関係機関だけでなく、地域住民同士での見守りができるようにしていく。</p>		
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)		
	<p>今後も、取手市役所高齢福祉課を中心に、地域包括センターやヤクルトさんと連携を取りながら、活動を行っていく。そして地域住民同士での見守りができるようにしていく。</p>		
		期間	今後の方向性の説明
	30年4月～31年3月	<p>地域住民の異変等を早期に発見できるように積極的に訪問先以外の近隣住民への挨拶や声かけを継続していく。また、職員の専門性を高め、情報収集して対応ができるような体制を整えていく。</p>	
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見			
<p>平成30年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な支援をお願いします。</p>			

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成29年度		
実施項目名	赤い羽根共同募金運動 街頭募金		担当係	藤代支所	
			担当者	職名	係長
事業開始年度	平成26年度			氏名	五十嵐玉枝
根拠法令等					
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実		
	行動計画	③	魅力あるイベントを開催します		
現状と課題	<p>10月に赤い羽根共同募金運動を展開していますが、使途がわからない、などのご意見を毎年頂戴しています。</p> <p>PRも兼ねて、赤い羽根共同募金運動の一環として街頭募金は毎年、市内各駅やスーパーマーケット、ボランティアさん、学校等の協力をいただき実施していますが、新規協力団体（ボランティア団体）を開拓します。</p> <p>赤い羽根フリーマーケット時（10月）は障害者福祉センターふじしろの新規事業と共催で、一層の充実を図ります。</p>				
目的 (何のために)	赤い羽根共同募金のPRと、理解を得るため、また市民の交流の場作りのため実施				
対象 (誰・何を対象に)	市民全般				
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど)	<p>街頭募金として、引き続き赤い羽根フリーマーケットの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月21日(土)開催(荒天順延) 1区画500円(80店募集) ・障害者福祉センターふじしろの事業と共同開催 ・特設ブースの設置(地域包括支援センター藤代なごみの郷の介護相談、おもちゃ病院無料修理、社協募金グッズ、わたあめ他) <p>その他の街頭募金活動予定</p> <p>JR取手駅、藤代駅、常総線 西取手駅、寺原駅、新取手駅(協力：取手地域女性団体連絡会)</p> <p>ヤオコー藤代店・取手店(協力：市内高校生、ボランティア団体)</p> <p>マスダ戸頭店(協力：ボーイスカウト取手3)</p> <p>とりで産業まつり(昭和産業株式会社)</p> <p>今年度も協力者には、助成金を配分しているボランティア団体等に声をかけ、協力をいただく。</p> <p>また、つつじ園まつり、ネットワークフェアなどの大勢の人が集まる場所での街頭募金も実施。</p>				
平成29年度 の実施状況	<p>10月21日(土)順延日22日(日)</p> <p>いずれも雨天のため中止(申し込みは38名で44区画あった)</p> <p>※5月フリーマーケット開催時に駐車場が混雑し苦情があったため、ふじしろ新規行事との共同開催は断念。(カフェウエルカムは営業していただく予定だった)</p> <p>その他の街頭募金・イベント募金実施状況</p> <p>10月1日 ヤオコー藤代店・青柳店(協力：花水木、さつき、紫水高、取手二高) 74,446円</p> <p>10月2日 JR取手駅等5駅とマスダ戸頭店(協力：取手地域女性団体連絡会) 80,324円</p> <p>10月15日 つつじ園まつり(4,717円)</p> <p>10月 いこいの場(13,201円)</p> <p>11月26日 マスダ戸頭店(協力：ボーイスカウト取手第3団)・16,614円)</p> <p>10月28日 第3回福祉まつり～笑顔のひろば～(16,961円)</p> <p>11月4、5日 とりで産業祭(協力：昭和産業株式会社)・26,179円)</p> <p>11月18日 ネットワークフェア 15,456円</p> <p>11月25日 障害者福祉センターふじしろ主催：第1回ハーベストマーケット(新規)4,478円</p>				

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		10月～ 12月	3	赤い羽根フリーマーケットは雨天のため中止だったが、街頭募金・イベント募金はボランティア団体、高校、企業、スーパーなどの協力をいただき、赤い羽根のPRが でき、街頭・イベント募金とも募金額も増となった。	
	課題				
	フリーマーケットは天候に左右される。 出店者の確保。 赤い羽根の使途など、わかりやすく説明したチラシを作成する				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	雨天だった場合は仕方がないので、街頭募金を他で1か所増やす。 出店者への特典を考える。（赤い羽根グッズのプレゼントなど）				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	各事業者の利用者さんや家族の方にも出店や来場をお願いする。				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		H30年 4月～ 8月	早めの準備（PR）		
	9月～ H31年 10月	他事業所でのイベントなどでチラシを配布してもらおう。 市内の商店などにポスター掲示をお願いする。			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
平成30年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成29年度		
実施項目名	地域イベントへの参加		担当係		障害者福祉センターふじしろ
			担当者	職名	主事
事業開始年度	平成27年度			氏名	平嶋浩司
根拠法令等					
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実		
	行動計画	③-(2)	魅力あるイベントを開催します。		
現状と課題	<p>これまでも様々な地域イベントへ参加をしているが、毎年決められたイベントへの参加だけを行っていたため、参加側も受け入れ側もマンネリ化している。 新たなイベントへの参加や既存のイベントへ違う形での参加を計画することで、地域社会との新たなつながりを持つことが課題。</p>				
目的 (何のために)	<p>地域イベントへ参加することにより地域社会との繋がりを強め、利用者の地域社会への参加、地域住民の福祉活動参加へのきっかけを作るため。</p>				
対象 (誰・何を対象に)	<p>福祉センターふじしろ利用者と職員が地域社会を対象に活動</p>				
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど)	<p>地域イベントへの販売参加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月 さくら荘まつり、ふじしろ図書館まつり ・ 5月 赤い羽根ふれあいフリーマーケット ・ 7月 買ってNetバザール ・ 9月 あげぼのまつり、藤代商工会まつり ・ 10月 赤い羽根ふれあいフリーマーケット ・ 11月 (福祉まつり、ネットワークフェア、光風台自治会まつり) ・ 2月 取手ひなまつり <p>28年度までは自主製作品等の販売を基本とした福祉センターふじしろとしてだけのイベント参加であったが、より地域との交流、福祉活動参加へのきっかけづくりを推進するため、「カフェウエルカム」としてのイベント参加を視野に入れ、ボランティアの積極的参加を促す。</p>				
平成29年度 の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「いこいの場」にて出演。ダンス2曲を発表。 ・ 予定していた既存イベントへの参加。 ・ 平成29年11月25日(土)「ふじしろハーベストマーケット」開催。 				

進行 管理	成果 状況	成果状況に対する説明	
		4月～ 3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害福祉センターふじしろ主催となった地域交流福祉イベント「ふじしろハーベストマーケット」を開催。 近隣福祉施設を中心とした参加10団体、当日来場者約500人と初年度開催としては当初の予想を上回る結果となった。 来場者は高齢者から、小中学生、子供連れなど幅広い年齢層が集まり、食を中心とした露店やワークショップを楽しんでいた。
	課題		
	センターふじしろ主催となる新規のイベントを開催することができたが、初年度開催ということで様々な課題が出たため、次年度へ向けて改善が必要。		
	課題解決のための改善内容・取り組み方針		
	今年度の反省をふまえ行動計画、工程表の見直しをし、開催へ向けたスケジュールの調整をする。地域交流、地域福祉促進を目的としたイベントとして魅力的にすべく、参加団体、催し物の企画を精査する。		
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)		
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明
		30年4月 ～ 31年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存イベントへの参加精査。 ・ 第2回ふじしろハーベストマーケット開催へ向けた企画、立案、実施。
	取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見		
平成30年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。			

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度		平成29年度		
実施項目名	高齢者クラブ連合会			担当係		老人福祉センターあけぼの
				担当者	職名	係長
事業開始年度					氏名	橋本 睦
根拠法令等	老人福祉法					
プランにおける該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実ー			
	行動計画	③. (1)	ふれあい交流活動への取り組み			
現状と課題	<p>高齢化社会を迎え、高齢者のふれあいの機会を増やす場としての老人福祉センターあけぼのの役割は年々増していると考えます。地域福祉に関する市民意識調査の中でも高齢者の集まれる場が少ないと地域の問題としてもあげられています。現在、この問題の解決策の一つともなりえる高齢者クラブの活動や内容があまり市民に周知されていません。</p>					
目的 (何のために)	健康づくりを進める活動やボランティア活動を通じて、地域を豊かにする各種活動を行います。					
対象 (誰・何を対象に)	市内在住おおむね60歳以上の高齢者。					
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまでにどのレベルまで達成させたいのかなど)	今年度も引き続き、高齢者クラブ連合会のPR活動をフェイスブック等に掲載して行います。合わせて、5月総会時に取手市高齢者クラブ連合会パンフレットの配布を行います。今年度、高齢者クラブだよりの発行を目指します。					
平成29年度 の実施状況	5月総会時に高齢者クラブ連合会のパンフレットを配布。あわせて、高齢福祉課や社協にも配置して、高齢者クラブの市民に向けての周知を図りました。7月と12月に活動内容を報告したものを、発行。第一回は各クラブ10部ずつを、第二回発行は各クラブ必要部数を配布しました。					

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		30年4 月～ 12月	4	高齢者クラブだよりの発行を2回行い、大会結果やねんりんスポーツ大会出場チームの結果報告や全体旅行、会長研修旅行の報告等が出来ました。スポーツ大会（グランドゴルフ・ペタンク・輪投げ）に出場していないクラブにも活動を周知させる事が出来たと思います。	
	課題				
	会報は結果報告のみなので、今後もう少し内容を充実させていきたい。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	クラブどうしの活動内容等がお互いに分からない為、今後各クラブの活動等を報告していけたらと思います。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	高齢者クラブ役員				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		29年4 月～年 月	今後もクラブの報告や県会議内容等の周知と合わせて、各クラブの活動等も報告できるようにしていきたい。		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
平成30年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度		平成29年度		
実施項目名	ふれあいの機会を増やす「百人一首大会」			担当係		老人福祉センターあけぼの
				担当者	職名	係長
事業開始年度	平成26年				氏名	橋本 睦
根拠法令等	老人福祉法					
プランにおける該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実ー			
	行動計画	③. (2)	魅力あるイベントの開催			
現状と課題	高齢化社会を迎え、高齢者のふれあいの機会を増やす場としての老人福祉センターあけぼのの役割は年々増していると考えます。しかし、現状では集客数は年々減少しており、昨年のあけぼの趣味教室無料体験のアンケート調査から判りました。					
目的 (何のために)	高齢者が家に閉じこもってしまわないように、老人福祉センターあけぼのが施設として仲介を行い、高齢者の交流の機会を増やすために、魅力あるイベントを開催し、さらには、あけぼのの利用者を増加させることを目的とします。					
対象 (誰・何を対象に)	市内在住60歳以上の高齢者。					
事業・業務の具体的内容等 (何をいつまでにどのレベルまで達成させたいのかなど)	今年度は、ルール方法や対戦方法を変え「百人一首大会」を行います。名称も「百人一首かるた大会」と変更し、初心者の方も参加しやすいイメージをつくります。また、広報以外にも早い時期からPRも行い以前参加された方にも通知を出す等を行い、参加者増加に努めます。					
平成29年度の実施状況	10月31日(火)に開催。今年度は、初心者の方でも親しみやすく「あけぼの百人一首かるた大会」と名前を改め、ルールも4～5人で1チームの個人対戦ではなく、2人1組となって対戦して行いました。					

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		8月～ 10月	3	昨年度からのボランティアの方々にも早めに依頼を行い、8名協力を頂きました。広報に掲載をし、いきいき講座生にも配布、昨年度百人一首勉強会に参加された方々にも配布したり、以前参加された方にもご連絡したりと周知を図りました。結果昨年度より2名多い22名の参加となりました。今回は、障害の方も参加希望をして頂け、車イスを利用してテーブルでかるたを取るという初めての方法も試しました。今年で4回目の開催となりますが、はじめから参加されている方がたには、連続出場者として表彰しました。	
	課題				
	アンケート結果では、楽しかった、2人1組は良かったと意見が寄せられたが、もう少しPRされては、とのご意見も参加者から直接頂いた。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	来年度は、各公民館に張出をしたり、他団体にもチラシを配布したりとPRをして行きたい。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	ボランティアの方々にご協力頂きました。				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		30年9 月～	各公民館にポスターを掲示。 広報と社協広報誌キューピットに掲載を依頼を行う。		
	年月～ 年月				
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
平成30年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度		平成29年度		
実施項目名	健康クラブ			担当係		老人福祉センターあけぼの
				担当者	職名	係長
事業開始年度	平成27年				氏名	橋本 睦
根拠法令等	老人福祉法					
プランにおける該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実ー			
	行動計画	③. (2)	魅力あるイベントの開催			
現状と課題	高齢化社会を迎え、高齢者のふれあいの機会を増やす場としての老人福祉センターあけぼのの役割は年々増えています。しかし、現状では集客数は年々減少しており、今年のあけぼの趣味教室無料体験のアンケート調査から老人福祉センター自体の市内の認知度が低い事が判りました。					
目的 (何のために)	高齢者が家に閉じこもってしまわないように、老人福祉センターあけぼのが施設として仲介を行い、高齢者の交流の機会を増やすために魅力あるイベントを開催し、さらには、あけぼのの利用者を増加させることを目的とします。					
対象 (誰・何を対象に)	市内在住60歳以上の高齢者。					
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させたい のかなど)	今年度は新プログラム「スローエアロビック」を取手社協ボランティアセンター担当者との協力のもと、第二・第四 金曜日に開催を行います。併せて、現在行われているあけぼの健康クラブの参加人数を10パーセント増加を目標と致します。					
平成29年度 の実施状況	29年度4月から本部ボランティア担当者と連携を行い、あけぼの大広間にて「スローエアロビック」を開催。広報やあけぼの館内にも掲示し周知を図りました。11月時点で参加者400名を超え、あけぼの健康クラブ6種の中で一番人気の講座となりました。					

進行 管理	成果状況評価		成果状況に対する説明	
	成果 状況	4月～ 12月	4	11月時点であけぼの健康クラブ参加者人数は、1,401人となり、28年度あけぼの健康クラブ参加者11月時点（1,053人）と比較し348人増加し、目標としていた10パーセント増加を大きく上回り24パーセントの増加となりました。（11月末時点）
	課題			
	あけぼの健康クラブ他5種（シルバーリハビリ・笑いヨガ・チューブ体操・太極拳・スローエアロビック・脳トレ）のうち、昨年度より参加者が増えているのは、太極拳と脳トレで、他が少しずつではあるが参加者が減少傾向にあります。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	今後も毎年広報に掲載をしていきます。併せて新規にあけぼのを利用して頂ける方にも、あけぼの健康クラブのチラシを配布していきます。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	本部 ボランティア養成担当者と連携。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		30年 4月～ 31年3 月	今後も継続して、あけぼの健康クラブのPRを広報等に依頼していく。併せて、いきいき講座生やチラシ配布を行う。	
	年 月 ～ 年 月			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
平成30年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成29年度	
実施項目名	高齢者の交流の機会を増やす	担当係		老人福祉センターあけぼの
		担当者	職名	係長
事業開始年度	平成27年		氏名	橋本 睦
根拠法令等	老人福祉法			
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実ー	
	行動計画	③. (2)	魅力あるイベントの開催	
現状と課題	高齢化社会を迎え、高齢者のふれあいの機会を増やす場としての老人福祉センターあけぼのの役割は年々増していると考えます。昨年度、事業実施からわずかつつですが、老人福祉センター利用者の数は増加しつつあり、今後も継続して維持してまいります。			
目的 (何のために)	高齢者が家に閉じこもってしまわないように、老人福祉センターあけぼのが施設として仲介を行い、高齢者の交流の機会を増やすために、魅力あるイベントを開催し、さらには、あけぼのの利用者を増加させることを目的とします。			
対象 (誰・何を対象に)	市内在住60歳以上の高齢者。			
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど)	今年度は、老人センターあけぼのの趣味教室の育成に力を入れます。現在ある趣味教室の参加人数が減少しているクラブに働きかけ、協力して広報等で募集をかけ、初心者教室の開催を行います。合わせて、あけぼの教室空き時間を利用して、あらたな趣味教室の増加にも力を入れます。3月までに1教室の増加を目標とします。			
平成29年度 の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ NPOこころプロジェクトと協働して、あけぼのフラワーアレンジメント教室の立ち上げにむけ、4月から月に一度あけぼのにて教室を実施。11月15日広報掲載してイベントとのひとつとして、クリスマスリース作りを行い、定員20名のところそれをを超える参加希望申込みがありました。参加された方の中から10名入会希望者があり、来年度よりあけぼの趣味教室として立ち上がります。 ・ あけぼの将棋教室が、高齢の為年々減少を続けており、会の代表と打合せを行い「あけぼの将棋体験教室」を開催。9月15日広報に掲載して、5名の参加申し込みがありました。その後、引き続いて4回(12月18日、1月19日、2月5日、3月5日)はじめての将棋体験教室を開き、既存の将棋教室に移行して頂く予定です。 ・ 西部ふれあいクラブより、ヨガを行う為の部屋借りをきっかけに代表の方と相談の結果、来年度よりあけぼの趣味教室となり、月2回行う事が決定致しました。 ・ あけぼのあみもの教室が今年度より新教室として、4月から開講いたしました。 			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		4月～ 12月	4	趣味教室を1つ増加させるという今年度の目標を、あみもの教室、フィットネス教室、ヨガ教室と3つにして達成する事が出来ました。来年度に向けても、フラワーアレンジメント教室の立ち上げが見込まれています。	
	課題				
	以前からある趣味教室の会員の高齢化が目立つ。新年度募集をかけても、60歳代の入会者は少なく併せて、老人センター大広間利用者・入浴利用者も減少している。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	新入会員を増やす為にも、趣味教室の方々にご協力頂き「一日体験教室」を行って会員増加を図り、老人センター利用人数につなげていきます。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	西部ふれあいクラブや、NPOころろプロジェクトと協働して、新規教室につなげる事が出来ました。				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		30年4 月～31 年3月	趣味教室代表者と話しながら、引き続き体験教室やイベントを行い既存の趣味教室の参加者増加につなげていきます。		
	年 月 ～ 年 月				
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
平成30年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成29年度	
実施項目名	ふれあいの機会を増やす「芸能発表会」	担当係		老人福祉センターあけぼの
		担当者	職名	係長
事業開始年度			氏名	橋本 睦
根拠法令等	老人福祉法			
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実ー	
	行動計画	③. (2)	魅力あるイベントの開催	
現状と課題	高齢化社会を迎え、高齢者のふれあいの機会を増やす場としての老人福祉センターあけぼのの役割は年々増していると考えます。しかし、現状では集客数は年々減少しており、昨年のあけぼの趣味教室無料体験のアンケート調査から判りました。			
目的 (何のために)	高齢者が家に閉じこもってしまわないように、老人福祉センターあけぼのが施設として仲介を行い、高齢者の交流の機会を増やすために、魅力あるイベントを開催し、さらには、あけぼのの利用者を増加させることを目的とします。			
対象 (誰・何を対象に)	市内在住60歳以上の高齢者。			
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで にどのレベル まで達成させたい のかなど)	あけぼの芸能発表会を、より多くの人に知って頂き参加して頂くために、あけぼの祭りのPR活動を行います。昨年同様、高齢者クラブやサロン等関係団体にチラシを配布します。あわせて、企業にもあけぼの祭りを盛り上げるべく、イベント参加・協力を依頼します。			
平成29年度 の実施状況	芸能発表会のPRを各公民館やサロン、高齢者クラブやいきいき講座生にもチラシを配布致しました。今年度は、カラオケシステムを導入した第一興商と、東日本ガスに協賛依頼をしたところ、飲料水とうちわ等を頂き、あけぼの祭り参加者に配布致しました。今年度は、つつじ園が焼きそばを、福祉センターふじしろは、いも団子等を販売してあけぼの芸能発表会を盛り上げました。			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		30年8 月～ 9月	4	8月に2社に依頼文を出し、9月のあけぼの祭りには2社より飲料水とうちわの等ご協力を頂き社協だよりに寄付の掲載とお礼状をお渡し致しました。他、今年度も中央タウン音響チームにボランティアを依頼しました。	
	課題				
	第二部のカラオケ参加者は多いが、第一部芸能発表は舞踊を踊れる方は減少しています。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	今後も引き続きPRを行っていきます。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	ポニーの家、つつじ園、福祉センターふじしろ、あけぼの陶芸同好会、中央タウン音響チームに依頼、協力他あけぼの趣味教室とも連携。				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		30年8 月～	PRのポスターやチラシを配布し始める。		
年 月 ～ 年 月					
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
平成30年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成29年度	
実施項目名	世代間交流	担当係		老人福祉センターあけぼの
		担当者	職名	係長
事業開始年度	平成27年		氏名	橋本 睦
根拠法令等				
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実ー	
	行動計画	③. (3)	ふれあいの機会を増やします。	
現状と課題	高齢化社会を迎え、世代間交流の場が少なくなってきました。 老人福祉センターあけぼのは、子供と高齢者のふれあいの場の機会をつくります。			
目的 (何のために)	老人福祉センターあけぼのが施設として仲介を行い、あけぼの利用者と子ども達の交流の場を増やす機会をつくります。			
対象 (誰・何を対象に)	市内在住60歳以上の高齢者と小学生。			
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	今年度も、陶芸教室に依頼を行い親子参加型の陶芸教室を3月までに開催し、高齢者と子どものふれあいの機会を増やします。 昨年開催した、取手市消防本部総務課と連携しての火災予防・お遊戯会は協力して頂いたあけぼの趣味教室の方からも好評だった為今年度も引き続き取手消防本部に依頼をお願いし、11月までに1回開催を行います。			
平成29年度 の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・8月1日号広報に掲載を行い、8月19日(土)に親子陶芸一日教室を行う。先着15組で募集した所、好評で定員に達しました。親子・祖父母を含め合計36人が参加されました。陶芸教室からも15名協力者に参加して頂きました。 ・取手市消防本部予防課へ今年度も依頼を行い、あけぼのにて「防火訪問2017・秋」をあけぼの大広間にて11月15日(水)に行いました。今年度も趣味教室 ドリームソングに協力依頼を行い、交流を図りました。 			

進行 管理	成果 状況	成果状況に対する説明	
		8月～ 11月	3 ・親子陶芸一日教室にて保護者にアンケートを行ったところ、初めての体験にやさしく指導して頂いたととても好評でした。老人センターあけぼのの存在を知っていたかという問いには、知っていたが7名、知らなかったが3名と若い方にも少しずつ施設の知名度も上げる事が出来ていると実感しました。併せて子供達とあけぼの陶芸教室の方との交流も出来ました。 ・防火訪問は、今年度は光風台幼稚園30名の園児が来所。ドリームソング20名と交流を行いました。一般の方も受付時に大広間に呼び込み園児と交流して頂きました。
	課題		
	・防火訪問は、一般の方にも参加して楽しんでもらえるよう検討をしていく。		
	課題解決のための改善内容・取り組み方針		
	・防火訪問は、事前に館内にポスターを貼ったり、窓口にてチラシを配布したりと一般の方にも周知していく。		
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)		
	あけぼの趣味教室の陶芸教室や、消防本部予防課と連携を行いました。		
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明
		30年 6月～ 30年1 2月	今後も引き続き、継続して行います。
	年 月 ～ 年 月		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見			
平成30年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。			

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成29年度	
実施項目名	郷土史巡りウォーキング	担当係		老人福祉センターさくら荘
		担当者	職名	主幹
事業開始年度	平成26年度		氏名	後藤 伸二郎
根拠法令等	老人福祉法			
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう ― 福祉サービスの充実	
	行動計画	③	魅力あるイベントの開催	
現状と課題	高齢者が気軽に通える居場所が少なくなっている中で、ふれあいの機会を増やす場としての老人福祉センターさくら荘の役割はより大きくなってきています。この目的を果たすためには利用者を増加させることを求められています。今年度もさらに利用者の増加を図るため、引き続き魅力あるイベントを開催します。			
目的 (何のために)	高齢者のふれあいの機会を増やすために魅力あるイベントを開催し、さくら荘の利用者をさらに増加させる。			
対象 (誰・何を対象に)	市内在住の60歳以上の高齢者			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させたい のかなど)	小貝川源流と重要文化財を訪ねるを12月までに実施。 案内役として新四国相馬霊場八十八カ所を巡る会の会員の方にお願ひし、取手市本郷にある「東漸寺」の見学をする。健康促進と教養の向上を図ると共に、ふれあいの機会を増やすことを目指したい。			
平成29年度 の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・案内役の新四国相馬霊場八十八カ所を巡る会の会員の方々と日程、コース、ポスター、トイレ休憩の場所等の打合せを行いました。 ・実施前にコースの下見を行い、到着時間等やコース観察を細かく確認しました。 ・とりで広報 11月1日号に参加者募集の記事を掲載。 ・11月1日(水)より参加者募集の申込み開始。 ・12月2日(土)郷土史巡りウォーキングを開催。 			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		4月～ 3月	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 12月2日（土）「郷土史巡りウォーキング」開催。 申込み総数 28名 参加者20名 案内役4名 参加費 無料 ※完歩賞としてつつじ園「桑の実ジャム」を進呈 ・ ポスターを福祉交流センター、あけぼの、さくら荘3カ所に掲示する。 	
	課題				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報とりで、キューピットで参加募集をしたが反応が少なかった。 				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ さくら荘周辺の郷土史ウォーキングではなく、取手市全域の郷土史巡りなどを取り入れる。 ・ ポスター掲示等のPR活動を取手市内の公共機関やコミュニティバスにも掲示する。 				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 案内役の新四国相馬霊場八十八カ所を巡る会の方達との連携を図る。 				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		30年4月 ～ 31年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 案内役の新四国相馬霊場八十八カ所を巡る会の方達と日程、コース内容の打合せをする。 ・ とりで広報に参加者募集の記事を掲載。 		
年 月 ～ 年 月					
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
平成30年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成29年度	
実施項目名	さくら荘 敬老まつり	担当係		老人福祉センターさくら荘
		担当者	職名	主幹
事業開始年度	平成26年度		氏名	後藤 伸二郎
根拠法令等	老人福祉法			
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう ― 福祉サービスの充実	
	行動計画	③.(2)	魅力あるイベントの開催	
現状と課題	高齢者が気軽に通える居場所が少なくなっている中で、ふれあいの機会を増やす場としての老人福祉センターさくら荘の役割はより大きくなってきています。この目的を果たすためには利用者を増加させることを求められています。今年度もさらに利用者の増加を図るため、引き続き魅力あるイベントを開催します。			
目的 (何のために)	高齢者のふれあいの機会を増やすために魅力あるイベントを開催し、さくら荘の利用者をさらに増加させる。			
対象 (誰・何を対象に)	市内在住の60歳以上の高齢者及び一般市民			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させたい のかなど)	さくら荘敬老まつりは敬老の日前後に行い、各教室発表と展示（書道、絵画、手芸）をする。今年度は、群馬県水上温泉の湯を取り込む予定で、高齢者に疲れた体を癒していただく。また、手打ちそば販売（限定50食）を行う。			
平成29年度 の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉業者との連絡を図りながら、群馬県みなかみ町奥平温泉「遊神館」の温泉をさくら荘の浴槽に取り込む。（平成29年9月16日～18日） ・カラオケ大会を無料にて実施する。 ・生きがい教室の（書道、絵画、手芸）の作品展示をする。 ・さくら荘そば打ち教室の方達と日程と食数（50食限定）の打合せをする。 ・9月1日号の広報とりで、キューピットに敬老祭り（温泉、そば販売）の開催記事を掲載。 ・高齢福祉課、福祉交流センター、さくら荘、あけぼのにてポスター掲示。 			

進行 管理	成果状況評価		成果状況に対する説明
	成果 状況	4月～ 3月	3
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9月16日（土）～18日（月）「さくら荘敬老まつり」を開催。 ・ 群馬県みなかみ町奥平温泉を取り込んだことで、入浴者は平日の1.3倍となった。 入浴者の声「温泉は湯冷めしないから良い」「のんびりできた。また、入りたい」と好評。 ・ 参加者 カラオケ大会（生きがい教室31名、一般10名） そば客50名 そば打ち10名 来賓5名 		
	課題		
	温泉を取り込むことは良かったが、思った以上に来客者が少なかった。さくら荘敬老まつりの広報活動が足りなかった。		
	課題解決のための改善内容・取り組み方針		
	今まで以上にポスターやフェイスブックなどのPRを積極的に行っていく必要があると感じた。さくら荘の景観を活かした魅力ある企画を考案していきたい。		
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各参加団体（生きがい教室、そば打ち教室）との連携。 ・ 市役所（高齢福祉課、広報広聴課）との連携。 ・ 温泉業者との連携。 		
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明
30年4月 ～ 31年3月		<ul style="list-style-type: none"> ・ 各参加団体への依頼と打合せを行う。 ・ 広報とりで、社協情報誌、フェイスブック等に掲載して情報を発信する。 	
年 月 ～ 年 月			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見			
平成30年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。			

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成29年度	
実施項目名	さくらまつり	担当係		老人福祉センターさくら荘
		担当者	職名	主幹
事業開始年度	平成26年度		氏名	後藤 伸二郎
根拠法令等	老人福祉法			
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう ― 福祉サービスの充実	
	行動計画	③.(2)	魅力あるイベントの開催	
現状と課題	高齢者が気軽に通える居場所が少なくなっている中で、ふれあいの機会を増やす場としての老人福祉センターさくら荘の役割はより大きくなってきています。この目的を果たすためには利用者を増加させることを求められています。今年度もさらに利用者の増加を図るため、引き続き魅力あるイベントを開催します。			
目的 (何のために)	高齢者のふれあいの機会を増やすために魅力あるイベントを開催し、さくら荘の利用者をさらに増加させる。			
対象 (誰・何を対象に)	市内在住の60歳以上の高齢者			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた いのかなど)	さくらまつりの活性化。 ①取手市出身やゆかりのある方にイベント出演を依頼する。 ②模擬店等を3月までに1つ増加させる。さくらまつりの来場者の増加に伴い、さくら荘のPRをしてさくら荘の入館者数の増加を目指す。			
平成29年度 の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬店出店予定者、参加協力団体等に依頼と打合せを行った。 ・さくらまつり駐車場を確保する為、協力者への依頼をお願いした。 ・とりで広報 3月15日号にさくらまつりの開催の記事を掲載。 			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		4月～ 3月	4	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年と比較して新しい演芸グループ2を追加（ギター演奏、ハーモニカ、ピアノ、琴演奏） 4月1日（土）10時から15時まで『さくらまつり』開催 模擬店－11店 演芸－5団体 作品展示（書道、絵画、手芸）ダンス大会 歌謡発表 さくら荘手打ちそば教室 お茶席 さくら荘売店（ぶりむら）囲碁大会 炎の焼きそば手芸品販売など ※来場者数 約1,150名 曇り空の中、大勢の来場者が見えた。演芸では、会場が一体となり出演者に観客から拍手や歓声が上がっていた。 	
	課題				
	<ul style="list-style-type: none"> ・来場者用の駐車場の案内や周知ができてなかった。 				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	<ul style="list-style-type: none"> ・来場者用の駐車場の案内やチラシを作成し、来場者へ配布して駐車場の場所案内をする。 				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアグループ、各種団体との連携。 ・市役所（広報係、産業振興課）との連携。 ・つつじ園、福祉センターふじしろとの連携。 ・取手市手をつなぐ育成会との連携。 ・近隣住民との連携。 				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		29年12月 ～ 30年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・さくらまつり（平成30年度開催）ボランティアグループ、各種団体へ依頼と打ち合せを行う。また、駐車場確保の為、関係者に依頼と打ち合せを行う。 ・とりで広報、社協情報誌、フェイスブック、ミニコミ誌などに掲載する。 		
年 月 ～ 年 月					
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
平成30年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度		平成29年度
実施項目名	ボランティアの受け入れについて	担当係		つつじ園
		担当者	職名	係長
事業開始年度	平成26年度		氏名	濱田 正之
根拠法令等				
プランにおける該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう 福祉サービスの充実	
	行動計画	③-(4)	福祉施設との交流の機会を増やします。	
現状と課題	ここ数年、ボランティアの受け入れは積極的に行ってきました。戸頭地域のボランティアや民生委員さん等、特定のグループに支援はいただいておりますが固定化、高齢化が進んでいます。新規のボランティアさんの開拓を目的にボランティアポイントカードの運用のなかでさまざまな魅力あるキャンペーンを実施していきたいです。			
目的 (何のために)	利用者と市民の交流の場となるようにふれあいの機会を増やします。			
対象 (誰・何を対象に)	つつじ園利用者、職員がボランティア希望者を対象とします。			
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで にどのレベル まで達成させ たいのかなど)	<p>広くボランティアを募集する中で作業、散歩、外出支援など得意なボランティア活動に取り組む中でつつじ園の利用者と関わっていただきたい。その中で障害者への理解を深めていただくとともに、レクリエーション活動（芋ほり&焼き芋、バーベキュー、流しそうめん、ウォークラリーなど）行事（つつじ園まつり）などにも参加していただき、徐々に地域の皆さんが気軽に集まれる場となっていくようにしたいです。また過去2回実施し好評であった「つつじ園ボランティア交流会」についてはさらにパワーアップしたイベントとなるよう創意工夫したいと思います。</p> <p>ボランティアポイントカード、通称「ボラビカード」を利用した新規ボランティアさんの獲得には年間を通じて季節ごとに魅力ある楽しいキャンペーンを実施しボランティア数の増加を目指します。</p>			
平成29年度 の実施状況	<p>H29年4月～12月までの活動参加者数は以下のようになっています。 4月118名 5月135名 6月127名 7月74名 9月83名 10月101名 11月160名 12月98名（12月末現在） 述べ1023名の皆さんにボランティア活動に携わっていただくことができました。参加人数は前年度より16%増加しています。</p> <p>参加者のみなさんの間ではボラビカードも定着しており「夏休み学生キャンペーン」「ポイント2倍キャンペーン」「くじ引きによるポイントアップキャンペーン」などの企画を季節ごとに実施してきました。50日の活動で満点になるカードがまもなく6枚目に入る方もいらっしゃいます。11月には第3回ボランティア交流大会を実施、50名以上の参加があり利用者、職員との親睦を深めました。</p>			

進行 管理	成果状況評価		成果状況に対する説明
	成果 状況	29年 4月 ～ 30年 3月	5
	参加者の増加とともに本年度については活動内容の幅も広がり、軽作業以外にもくわのみジャムの収穫、ウォーキングへの同行、各行事へも参加して頂きました。ボラビカードが定着したことで新規のボランティア開拓の一助となっています。今まではボランティア担当職員に依存していた部分も多かったです。徐々に職員全体のボランティアを受け入れるという意識も高まってきていると思います。		
	課題		
	昨年も課題としてあげられていた若い世代の参加者については増えてはきたもののまだやや不足しているところ。また、ここ数年でいえば参加者の増加には繋がっていますが日々の活動内容、交流会等のイベントについてマンネリ化しないよう新しい取り組みについても検討の必要があります。		
	課題解決のための改善内容・取り組み方針		
	現在の受け入れを継続的に行っていくとともに、より魅力的なイベント、新しい企画の実施、いままです声が届いていなかったところへの呼びかけなどにも力を入れ、ボラビカードの活用を軸に新規ボランティア参加者の開拓を今まで以上に進めていきたいと思っています。		
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)		
	ボランティア支援センター、地域の民生委員、長くお力を頂いているボランティアグループなど活動の中核を担う方々との連携はより一層強化していきたいと思っています。		
	今後の方向性		今後の方向性の説明
期間	30年 4月 ～	30年度も引き続き「ボラビカード」の運用を軸にボランティア活動参加者の増加を目指します。年度当初には目標の設定を明確に行いつつじ園職員全体でボランティア活動の推進に取り組んでいくようにしたいと思います。 また、新たなイベント等を実施して途中で活動のさらなる充実を目指し、交流会においては今まで以上に職員、利用者、ボランティアのコミュニケーションを図る場としての機能を発展させていきたいと思っています。	
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見			
平成30年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。			

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成29年度	
実施項目名	取手市立保育所との保育交流	担当係		取手市立こども発達センター
		担当者	職名	児童発達支援管理責任者
事業開始年度	平成26年度		氏名	宮崎江美子
根拠法令等				
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう——福祉サービスの充実	
	行動計画	③	福祉施設との交流の機会を増やします	
現状と課題		<p>■現状：こども発達センター年少・年中・年長の単独通園児が毎月1回、午前中1時間程度、取手市立の保育所（7箇所）の集団活動に参加し交流を行う。保育交流以外にも近隣保育所の園庭の開放をして頂き、地域のお子様との交流を深めていく。</p> <p>■課題：双方の保育士及び指導員間の情報交換の頻度を上げる必要がある。</p>		
目的 (何のために)		■当センターの単独通園児が地域で同年齢のこども達との集団生活を通し交流することにより対人関係を構築し社会性を身に付けていく。		
対象 (誰・何を対象に)		■当センターの単独通園児と各保育所のこども達を対象。		
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)		<p>■上記のとおり当センター単独通園児と取手市立の保育所園児との保育交流を行っている。 【保育交流の流れ】</p> <p style="margin-left: 20px;">～ 9：50 保護者が各保育所に送る</p> <p style="margin-left: 20px;">10：00～11：00 保育所の活動に参加</p> <p style="margin-left: 20px;">11：15 当センター送迎車にて保育交流に参加した保育士、子供の迎え</p> <p style="margin-left: 20px;">11：30～ 当センターに戻り各クラスの通常活動に参加</p> <p>■交流日以外でも同年齢のこども達と関わりを増やせるように、地域との関係性を築いていく。また、近隣の保育所の園庭を開放して頂き交流を深めていく。</p> <p>■保育交流開始前に各保育所の担当の先生方と活動内容の確認と情報交換を行う。また年度末に行われる保育所長会議に参加し、反省点や受け入れ側の意見を伺う。これ以外にも必要に応じ双方の意見交換を行い、1年を通し事業の充実向上に努めていく。</p>		
平成29年度 の実施状況		<p>■4月18日（火）センター長と担当保育士2名にて公立保育所7箇所へ挨拶訪問実施。</p> <p>■4月25日（火）発達センターにて各保育所の担当保育士と事前連絡会を実施。参加人数や活動の内容の確認等を行いながら、保育士間の交流を深めた。</p> <p>■4月中には交流に参加する利用児のグループを決定し、5月から保育交流が実施できるように検討した。</p> <p>■毎月、公立の担当保育士と電話にて交流日程の確認を行い、参加人数や活動内容の連絡をとった。</p>		

進行管理	成果状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		4月～3月	3	<p>■単独通園を利用しているお子様方が、毎月1回定期的に市内の公立保育所との保育交流を行い、地域のお子様と関わることで経験の幅を拡げることができた。</p> <p>白山保育所 (第3火曜日) : 4名 久賀保育所 (第1水曜日) : 1名 舟山保育所 (第3水曜日) : 3名 永山保育所 (第1木曜日) : 2名 中央保育所 (第2火曜日) : 6名 吉田保育所 (第4火曜日) : 2名 戸頭北保育所 (第2水曜日) : 2名</p>	
	課題				
	■交流日以外でも地域のお子様との交流を拡げること。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	■近隣保育所と発達センターと話し合い、園庭開放を実施して頂き交流を深めていく。また保護者同士の交流ができるよう働きかける。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	■各保育所と発達センターとの行事や活動の調整を行いながら親交を深めていく。				
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明		
		29年4月～30年3月	■保育交流の目的である地域の中で、同年齢のお子さんとの触れ合いや他者とのコミュニケーションの場として、今後も継続して実施していきたい。		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
平成30年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度		平成29年度
実施項目名	市内、小・中・高校の実習等受け入れ等による地域交流活動	担当係		つつじ園
		担当者	職名	係長
事業開始年度	平成26年度		氏名	濱田 正之
根拠法令等				
プランにおける該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう 福祉サービスの充実	
	行動計画	④-(1)	お互いを理解しあう意識啓発に努めます。	
現状と課題	以前より実習の受け入れは行っているが近隣の数校に限られているのが現状です。本年は市内高等学校のボランティア部との連携強化を図り利用者との交流の機会をより多く設けていきたいと思えます。			
目的 (何のために)	交流を深めることによって知的障害について理解していただくきっかけとなるようにします。			
対象 (誰・何を対象に)	つつじ園利用者、職員が近隣市町村の小、中、高校生を対象とします。			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させたいのかなど)	戸頭小、戸頭中、取手二高など今まで受け入れを行ってきた近隣の学校以外にも積極的に働きかけを行い、クラブ活動、作業、清掃活動、体力づくり等の時間で受け入れを進めます。その中で事前の打ち合わせや受け入れ後のフォローアップを含め、生徒さんが直接利用者に関わっていただく機会を出来るだけ多く設け、お互いによくコミュニケーションが取れるようにサポートしていきたいです。 夏休み期間中等には特に学生の参加を促すイベントについても検討します。興味のある生徒にはその後のボランティア活動につながるような支援もしていきたいです。			
平成29年度 の実施状況	例年実施している近隣学校からの実習の受け入れ以外に本年度は取手市内のすべての中学校、高等学校へ直接出向き夏休み期間中の学生さんに対し「夏ボラビ」という学生ボランティア受け入れのイベントを7月24日～8月25日までの1ヶ月間実施しました。 登録者数17名、述べ42名の皆さんに参加していただき最終日には利用者さんと一緒に流しそうめんなどのお食事を打ち上げに実施しました。その後、つつじ園まつり等のボランティアに参加していただいた方、学校の休みの日に来ていただいた方も複数名いらっしゃいました。			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明		
		29年 4月 ～ 30年 3月	5	市内全ての小中学校を担当者が回り、ボランティア担当の先生と個々に事前打ち合わせを実施してきました。校内へのポスターの掲示、チラシの配布、事前見学会の実施など学校関係の皆様にご多大なご協力を頂き多くの生徒さんにつじ園を知ってもらうことが出来ました。各校のボランティア部同士のつながり、学校間の取りまとめをしている先生がいらっしゃるなどがわかり今後の活動の際にもご協力いただけるような関係作りも出来たのは大きな成果でした。		
	課題					
	取り組みとしては概ね成功を収めたと思っています。継続して取り組んでいくことで多くの学生ボランティアが夏休みに集まる場所として認知され活気ある施設になるように職員一同頑張りたいと思います。					
	課題解決のための改善内容・取り組み方針					
	次年度も継続して「夏ボラビ」を実施しさらなる学生ボランティアの参加増を目指したいです。					
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)					
	中学、高校のボランティア担当職員と引き続き良好な関係を築き活動に広がりを持てるようにしていきたいです。					
	今後の 方向性	期間		今後の方向性の説明		
		30年 4月 ～	地元戸頭地域のボランティアの拠点として学生から、民生委員まで多くの世代の多くの方々が集う場となるよう継続してボランティア活動の推進に取り組んでいきたいと思ひます。今後、夏休み以外にも学生と一緒に出来る活動を企画していきたいです。			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見						
平成30年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。						

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成29年度	
実施項目名	学校授業における職場体験学習/福祉体験学習の受け入れ	担当係		障害者福祉センターあけぼの
		担当者	職名	主事
事業開始年度	平成27年度		氏名	石井 千晶
根拠法令等	障害者の日常生活および社会生活を総合的に支援するための法律			
プランにおける該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう—福祉サービスの充実	
	行動計画	④	お互いを理解しあう意識啓発に努めます	
現状と課題	身体障害をお持ちの方への差別や偏見を無くすため、健常者と広く世代を超えた交流を図れる場を設けていく事が課題と考えられます。			
目的 (何のために)	身体障害をお持ちの方と身近に接し理解して頂くことにより、差別と偏見を無くすよう市民意識を変えていく中で、周辺学校(中学・高校)の若い世代を中心に意識啓蒙に努めていきます。			
対象 (誰・何を対象に)	あけぼの近隣の中学・高校の生徒を対象に行います。			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	<p>①事業実施へ向けての準備期間(5～8月) 前年度交流を持った取手第二高等学校担当教諭と連絡を取り、今年度も同様にご協力頂ける様打ち合わせします。取手第二高等学校に赴き、担当教諭と今年度の活動方針について協議を行い、活動の日程調整を行っていきます。</p> <p>②事業実施(9月～3月) 年度内に3回程度、延べ20人以上の参加を持って実施。 事前にあけぼのの利用者へ事業の趣旨説明を行い、クラブ活動等を通して障害当事者との交流を持てる機会を提供します。また、周辺学校(中学・高校)の文化祭などの学校行事に赴き、各クラブ活動で製作した作品の展示を通して、あけぼのの施設紹介及び障害当事者との交流を持てる機会を提供します。</p>			
平成29年度 の実施状況	<p>①5月17日取手第二高等学校へ伺い、担当教諭に今年度の協力依頼をし、了承を得る。7月21日、再度取手第二高等学校へ伺い、担当教諭と交流についての詳しい日程調整を行う。</p> <p>②9月22日の音楽療法のリサイタルに来て頂けるよう依頼する。また、取手第二高等学校文化祭への作品展示及び、卓球バレーへの参加についても合わせて、協力の依頼をする。9月22日音楽療法のリサイタルに吹奏楽部の生徒8名来所。10月18日に取手第二高等学校に電話をし、11月29日に行う卓球バレーへ来て頂けるようお願いする。11月29日、取手第二高等学校バドミントン部の生徒及び先生13名来所。卓球バレーを利用者と一緒に行われる。11月中旬、取手市立戸頭中学校より、2年生2名の職場体験受け入れ(1月23日～25日)の依頼を受け、了承する。12月10日職場体験予定の生徒2人来所。当日の調整を行う。1月23日～25日の3日間、取手市立戸頭中学校の職場体験の受け入れをする。音楽クラブやリハビリ活動などの各種クラブ活動への参加や、余暇時間などを通して交流を行う。</p>			

進行管理	成果状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		4月 ～ 3月	3	取手第二高等学校より、9月音楽療法リサイタルに8名参加。利用者と一緒に合奏や合唱も行い、リサイタルを楽しまれる。11月の卓球バレーに取手第二高等学校より、13名の生徒が参加。また、市の国体準備委員の職員や卓球バレーの普及を行っている方にもご協力を頂き、利用者と楽しく卓球バレーを行うことができ、障害者スポーツとして卓球バレーを知ってもらうことが出来ました。取手市立戸頭中学校の生徒2名は、始め緊張してうまく交流が出来ない様子があったが、次第に自ら利用者に話しかけられる等していました。参加した活動では、利用者と一緒に陶芸の作品を作られるなど、楽しまれていました。	
	課題				
	近隣の高等学校及び中学校の生徒の方に、施設の方へ来て頂くことはできたが、高等学校や中学校の方へ赴くことや学園祭等での活動の紹介が出来なかった。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	年度当初より近隣中学校や高等学校を訪問し、実習担当教諭との打合せを実施。生徒の年間指導プログラムに組み入れてもらえるよう依頼していく。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	近隣の中学校及び高等学校に呼びかけ、あけぼのにおける実習や各活動の発表等の案内をする。				
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明		
		30年4月 ～ 31年3月	引き続き体験学習等の受け入れを行い、身体障害者に対する理解を深めて頂けるよう普及啓蒙していく。		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
平成30年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成29年度																																		
実施項目名	地域の中学校・高等学校との交流事業	担当係		取手市立こども発達センター																																	
		担当者	職名	児童発達支援管理責任者																																	
事業開始年度	平成27年度		氏名	宮崎江美子																																	
根拠法令等																																					
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう——福祉サービスの充実																																		
	行動計画	④	お互いを理解しあう意識啓発に努めます																																		
現状と課題	<p>■現状：中学校、高等学校を中心に発達センターの役割りについて理解を深めていただく為、療育（補助）へのボランティア参加を呼びかけている。しかし現状では学校側や生徒自身からの希望がほとんどない状態である。</p> <p>■課題：前年度からボランティア活動を依頼している聖徳高校と発達センターの行事や集団活動の参加にお願いできるよう、早い段階から調整をし通年を通して交流できるようにしていく。今後は幼児教育、障害福祉に興味を持つ大学生のボランティア受け入れについても積極的に行なっていく。</p>																																				
目的 (何のために)	■異世代間の交流により利用児とふれ合う機会を増やし、地域の中で発達センターが果たす役割りについて理解を深めていただく。																																				
対象 (誰・何を対象に)	■取手市内の中学生、高校生及び大学生。																																				
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで にどのレベル まで達成させた いのかなど)	<p>■他事業所との情報共有を行ないながら、生徒達のボランティア体験の場として提供できるように学校側の福祉教育等にアプローチする。</p> <p>■ボランティアとして参加する生徒には単独通園の通常プログラムに参加していただき、利用児の様子や職員の利用児に対する関わり方等を実際に経験し理解を深めていただく。また、運動会やお楽しみ会等の行事においてもボランティアの募集を行なう。</p> <p>【交流の流れ】</p> <p style="margin-left: 20px;">～ 9：30 打ち合わせ</p> <p>10：00～13：30 単独通園体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着替え補助、自由遊び ・朝の集まり、体操 ・課題（製作、感触遊び、散歩など） ・昼食、自由遊び ・帰りの会、降園 <p>■ボランティア体験後に感想等を踏まえ更に発達センターについて理解を深めていただく。</p>																																				
平成29年度 の実施状況	<p>■随時、一般の方のボランティアを受け入れていく。 一般の方や保育士、高校生、大学生等、32名のボランティア希望があった。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">6月</td> <td style="width: 40%;">聖徳大学学生</td> <td style="width: 10%;">5名</td> <td style="width: 10%;">1日</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>保育士</td> <td>1名</td> <td>1日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">8月</td> <td>武蔵野大学学生</td> <td>1名</td> <td>3日間</td> </tr> <tr> <td>保育士</td> <td>1名</td> <td>1日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2"></td> <td>一般の方</td> <td>1名</td> <td>2日間</td> </tr> <tr> <td>聖徳女子高校学生</td> <td>8名</td> <td>1日</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>保育士</td> <td>1名</td> <td>1日</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>聖徳大学学生</td> <td>6名</td> <td>1日</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>聖徳女子高校学生</td> <td>8名</td> <td>1日</td> </tr> </table>			6月	聖徳大学学生	5名	1日	7月	保育士	1名	1日	8月	武蔵野大学学生	1名	3日間	保育士	1名	1日		一般の方	1名	2日間	聖徳女子高校学生	8名	1日	10月	保育士	1名	1日	12月	聖徳大学学生	6名	1日	2月	聖徳女子高校学生	8名	1日
6月	聖徳大学学生	5名	1日																																		
7月	保育士	1名	1日																																		
8月	武蔵野大学学生	1名	3日間																																		
	保育士	1名	1日																																		
	一般の方	1名	2日間																																		
	聖徳女子高校学生	8名	1日																																		
10月	保育士	1名	1日																																		
12月	聖徳大学学生	6名	1日																																		
2月	聖徳女子高校学生	8名	1日																																		

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		4月～ 3月	4	<p>■一般のボランティア希望者は随時、受け入れを実施。32名の方を延べ12日間、発達センターの行事や単独通園等の通常プログラムに参加して頂き、発達センターが担っている事を体験して頂いた。</p> <p>■聖徳大学の学生や取手聖徳女子高等学校の学生方が積極的にボランティアに参加して下さいました。今後も交流を深めていきたい。</p>	
	課題				
	<p>■今後の学生ボランティア受け入れの際、発達センターのお子さんの特性を理解して頂き、声かけや対応方法について知らせる。</p>				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	<p>■ボランティアにあたる前に、お子さんの対応について具体的に説明し理解を高めていく。</p>				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	<p>■発達センターと学校等でボランティアの受け入れ時期の調整をする。</p>				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		29年4月～ 29年9月	<p>■一般のボランティア参加も増えてきているため、継続的な実施となるように声掛けを行う。</p> <p>■中学生の職場体験の場として地域の学校にアプローチしていきたい。</p>		
29年10月～ 30年3月		<p>■私立高等学校のボランティア活動として継続できるように、顧問の先生と話し合っていきたい。</p>			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
平成30年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成29年度	
実施項目名	小地域助け合い活動	担当係		地域支援係
		担当者	職名	係長
事業開始年度	平成26年度		氏名	小林一郎
根拠法令等				
プランにおける 該当項目	行動目標	4	みんなで集まり、協力しよう一連携強化と拠点づくり	
	行動計画	①	地域福祉推進体制を整備します	
現状と課題	小地域の中で様々な団体が活動し、それぞれの活動で成果を上げているが、地域全体でのネットワークや協働がない。地域包括ケアシステム構築に向けての協議体が組織され、地域の課題を話し合う場ができたが、課題解決に向けての新たな福祉サービスが求められている。			
目的 (何のために)	小地域の中で、自治会やボランティア、民生委員、行政、企業、施設等、情報を共有し、ネットワークをつくり、共に協力し合い、地域には何が必要か、何ができるかを話し合い、より良い地域づくりを目指す。			
対象 (誰・何を対象に)	自治会、ボランティア、民生委員、行政、企業、施設等団体の代表者			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	地域包括支援センターと協力し、協議体やさらに小地域で行われる座談会、研究会等の会議に積極的に参加し、地域での課題や取り組みについての情報を共有する。さらに「助けあいのまちづくり」推進事業助成金の説明もしてまちづくりに積極的な自治会等にも広く広報する。今年度は2団体を目標に助成を行う。			
平成29年度 の実施状況	地域包括ケアシステム構築のための会議、第1層協議体には生活支援コーディネーターの委嘱を受け参加、第2層協議体にはオブザーバー参加。また、各地域で行われている座談会へも参加し、市内の小地域活動や課題の情報収集、他の地域の活動を座談会において紹介して類似課題をもつ地域への啓発にも努めた。			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		4月～ 3月	3	協議体への参加のほか、小地域で行う座談会に参加することにより地域での様々な活動、地域課題を知ることができた。今後は地域での新たなサービスの創出への方向性、どのような協力体制を構築できるかなど、地域での意見交換により様々な取り組みについて研究する。	
	課題				
	新たなサービスにつながる活動の創出は難しい。新しいサービスが生まれた地域もあるが、他の地域に反映させることが難しい。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	新たなサービスの構築について実際どのようなプロセスでどのような方々の協力で活動が行われているかなどの研究。地域のつながりや活動を行っている方たちの意見を参考に類似した条件を満たせるよう、団体やボランティアのつながりを検証し、ほかの地域で足りないものを考える。地域でどのくらいまで活動ができるか、できることは何かを住民自ら考えられるような仕組みをつくる。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	自治会町内会の活動について、市民協働課等より活動の情報をなどをいただき調査する。				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		29年4 月～ 30年3 月	今後も協議体や座談会での地域課題の解決への方向性や地域資源の把握、より多くの地域の情報を収集する。また、小地域での活動を行う自治会、町内会、自主防災会など、まちづくりの推進を行う団体が社協と連携し、活動展開する。		
	年 月 ～ 年 月				
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
平成30年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度		平成29年度			
実施項目名	助けあいのまちづくり推進事業			担当係		地域支援係	
				担当者	職名		係長
事業開始年度	平成27年度				氏名		小林一郎
根拠法令等							
プランにおける該当項目	行動目標		4		みんなで集まり、協力しよう一連携強化と拠点づくり		
	行動計画		①		町内会（自治会）の活動を支援します。		
現状と課題		自治会への加入率の減少、少子高齢化により、自治会の多くは活動が困難になっている。一方、今後ますます高齢化が進み、福祉サービスが不足する中で地域の助け合い活動が重要になってくる。地域でできることを考え、誰もが参加しやすい仕組みづくりが望まれる。					
目的（何のために）		誰もが地域の事を考えより良い福祉のまちづくりを実現するために、地域住民による「支えあい」「助けあい」による取り組みに対して活動費の一部を助成することによって、「助けあいのまちづくり」の推進を図ることを目的とする。					
対象（誰・何を対象に）		取手市内自治会、町内会					
事業・業務の具体的内容等（何をいつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど）		5月市政協力員総会において「助けあいのまちづくり」推進事業助成金の募集要項を配布。地域を良く知る市政協力員の皆さんに「助けあいのまちづくり」推進事業について広報をし、新規事業等計画していることへの助成金制度を知ってもらい、趣旨に合った団体を選定し助成額を交付する。6月には広報とりでで「助けあいのまちづくり推進事業」の内容等記載し募集をかける。助成金は1団体につき、1回に限り10万円を上限とし、助成した活動について事業終了後は報告書を提出してもらおう。今年度2団体を目標に助成する。					
平成29年度の実施状況		5月、市政協力員総会において「助けあいのまちづくり」推進事業助成金の募集要項を配布。広報とりで6月号で「助けあいのまちづくり」推進事業助成金について広報し、広く助けあいのまちづくりの活動を推進する地域を募る。今回八重洲ニュータウン自主防災会、取手市女性の歴史とこれからのを考える会から応募があり助成金を交付した。					

進行 管理	成果 状況	成果状況に対する説明		
		4月～ 3月	3 八重洲ニュータウン自主防災会では子供たちにも防災について関心を持ってもらうため防災ポスターを子供たちに描いてもらい、それを自治会館に展示する展示装置を購入するための助成金。今年度は防災訓練時に防災防犯に関するポスターを会場全体に掲示した。また、取手市女性の歴史とこれからの考える会では、明治・大正・昭和を生きてきた女性の歴史を冊子にした『川面ひかりて』をもとに作った紙芝居の舞台購入の費用として助成を行った。地域の若い世代にも当時の暮らしを知ってもらい昔ながらの生活の良さや助けあいなど地域づくりの参考になればと今後様々な地域での講演を行う予定とのこと。	
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	助け合いのまちづくり推進事業助成金への問い合わせが少なく、知られていないため、広くこの事業を知ってもらえるよう、様々な会議等で説明をして、多くの地域の参加により、様々な地域でまちづくりに関して考えてもらえるようにする。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	広報活動の充実、どのような目的かを明確にし、まちづくりについて関心を持ってもらう。また、今年度の取りんだ地域と同じような活動をしている自治会、自主防災会等を対象にまちづくりに必要な経費として助成金を活用してもらえるよう説明を行う。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	協議体やそれに付随する座談会等で参加者である自治会、町内会、自主防災会等の役員に趣旨説明をし、参加を促す。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		30年4 月 ～ 31年3 月	平成30年度も1団体10万円を限度に総額20万円として地域のまちづくりに対して助成金を交付する。様々な地域づくり今後のまちづくりの参考にして、社協での取り組みの方向性についての参考にする。	
	年 月 ～ 年 月			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
平成30年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成29年度		
実施項目名	共生型地域交流拠点の設置・運営		担当係		障害者福祉センターふじしろ
			担当者	職名	主事
事業開始年度	平成28年度			氏名	平嶋浩司
根拠法令等					
プランにおける 該当項目	行動目標	4	みんなで集まり、協力しよう一連携強化と拠点づくり		
	行動計画	-3	地域のニーズに応じた社協活動を進めます。		
現状と課題	近隣地域において、ボランティアの活動者が不足している。 地域活動の参加者の高齢化や参加者が特定の人に限定されており、地域社会において住民のつながりが希薄化している。 各世代の交流はあっても、子供から高齢者まで幅広い世代間の交流を持てる機会、場所が少ない。				
目的 (何のために)	地域住民が出会い、世代間・障害の有無などの垣根を越えてつながり、理解し合い、共に助け合っていることが実感できるまちづくりのきっかけをつくるため。				
対象 (誰・何を対象に)	市民全般				
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまでにどのレベルまで達成させたのかなど)	<ul style="list-style-type: none"> ■障害者就労支援の場 <ul style="list-style-type: none"> ・障害のある方が地域住民とふれあいながら自分らしく就労できる場所の設置 ・「カフェウエルカム」「福祉の店」の運営 ■ボランティア活動の場 <ul style="list-style-type: none"> ・「カフェウエルカム」「福祉の店」等でボランティア活動をおこなうことで、障害のある方と交流し、助け合うことの大切さを実感できる場所づくり。 ・ボランティア活動推進の為、ボランティアポイントカードシステムの導入実施。 ■地域コミュニティ推進の場 <ul style="list-style-type: none"> ・10月に開催される赤い羽根共同募金ふれあいフリーマーケットと共催し、「カフェウエルカム」を中心とした近隣福祉施設等が参加する「食」をテーマにしたイベントの開催。 ・10月開催のイベント内にて、近隣小中学生を対象としたワークショップの開催。 ・拠点内、レンタルギャラリーの一般開放実施。 ・認知症カフェの開催 <ul style="list-style-type: none"> なごみの郷主催 「喫茶 和」年4回 5/17、9/20、11/15、3/14 回想法主催 「レニンカフェ」年7回 6/6、7/4、8/1、9/5、10/3、11/7、12/5 				
平成29年度 の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者就労支援の場として カフェオープン当初、就労訓練実習に取り組む利用者は2名ほどでしたが現在は6～7名ほどの利用が就労訓練実習参加。 ・ボランティア活動推進状況 平成29年12月現在、ボランティア参加延人数480名 ※平成28年は217名 ・地域コミュニティ推進の場として 拠点内レンタルギャラリーにおいて市民団体、愛好会等の作品展示。 認知症カフェ年11回開催※2団体主催。 地域交流福祉イベントとして「ふじしろハーベストマーケット」開催。来場者約500人 				

進行 管理	成果 状況	成果状況に対する説明		
		4月～ 3月	4	<ul style="list-style-type: none"> ・カフェウェルカムに関わる作業を分析、細分化し様々な利用者が活躍できる場を設けることで、当初1～2名の実習参加利用者が6～7名ほどに増え接客、清掃、食材仕込み等において実習に取り組むことができている。 ・カフェにおけるボランティアを中心に日常的に参加していただけるボランティア増え、ボラビカード満点による善意銀行寄付を複数回していただいたボランティアも多数在籍している。 ・レンタルギャラリーは取手市内を中心に様々な作品の愛好家団体が展示を申し込みいただき、再度の申し込みを希望する団体が多い状況 ・地域福祉の推進、交流の場として開催した「ふじしろハーベストマーケット」、初年度としては予想を上回る来場者を記録した。
	課題			
	<p>カフェウェルカムの運営により、地域住民の利用は増加し、顧客も増えているが、客層は高齢者が大半をしめている。幅広い世代の交流を目指している共生型地域交流拠点としては、11月に開催された「ふじしろハーベストマーケット」のようなイベント時だけでなく、小中学生や子育て世代層の利用も促すためには、次年度における具体的な取り組みが必要。</p>			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	<p>幅広い世代の交流の場として、近隣小中学校や市内高校と連携を取り、具体的な取り組みを企画、実施していく。 子育て世代層のカフェ利用を促すため、カフェ環境、メニュー等の見直しを図る。</p>			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		30年4月 ～ 29年9月	市内小中学校、高校と連携し共同企画のワークショップ等、イベントの開催。	
	30年10月 ～ 31年3月	第2回ハーベストマーケット開催。		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
<p>障害を持った方たちの活躍の場、地域とのコミュニケーションができる場所としてとても良い取り組み。 地域の交流拠点としての役割は非常に重要、今後も活発な活動を期待している。</p>				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成29年度	
実施項目名	子育てネットワーク推進	担当係		地域支援係
		担当者	職名	係長
事業開始年度	平成26年度		氏名	小林一郎
根拠法令等				
プランにおける該当項目	行動目標	5	子どもたちを地域で育もう	
	行動計画	①	親子交流の場の整備に努めます	
現状と課題	<p>子育て支援センターなど子育て世代が集う場所はあるが、小地域で地域ぐるみの交流場所がない。また同世代のみの交流になり、地域活動への参加にはつながらない。昨年度は親子ブレインジム講習会を開催したが、参加者が少なくサークルにつながるようなものに至らなかった。今年度は4ヶ所の子育て支援センターでブレインジム講習会を実施し、ブレインジムについての興味関心を持ってもらう。また、ブレインジムのボランティアについても高齢者向けに多く派遣しているため、子供向けやメンタル面での保護者向けのブレインジムについてボランティアさんの周知がなされていない。</p>			
目的 (何のために)	<p>小地域の中で子育て世代と地域社会のつながりをつくる。子育て世代のみならず地域住民が参加しやすい場を設け交流することによって地域でともに支える環境づくりする。</p>			
対象 (誰・何を対象に)	<p>子育て世代、シニア、児童</p>			
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど)	<p>地域子育て支援センターでのブレインジム開催。保護者への興味関心を持ってもらうために定期的に行えるようにする。親子ブレインジム講習会を開催し興味を持った方を対象に今年度中に親子向けのブレインジムを目的としたサロンを1ヶ所を目標に立上げを目指す。</p>			
平成29年度 の実施状況	<p>ブレインジムインストラクター貝塚氏の協力で親子で行えるマニュアルを作成。0歳から1歳、1歳から3歳、3歳から6歳の年齢ごとに3タイプマニュアルができた。</p>			

進行 管理	成果 状況	成果状況に対する説明		
		4月～ 3月	3	具体的にどのようなことを行うかのマニュアルを作ることによって内容を具体的に説明できる。今後子育て支援センター等でどのようなことができるかをマニュアルをもとに説明し、活動につなげやすくなった。
	課題			
	3月には4ヶ所の子育て支援センターにおいて、実際マニュアルをもとに様々な年齢を対象として親子でのブレインジムを行う予定。実際に行いそれぞれの場所でどのようなものが良いのかの検討が必要。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	実際に子育て支援センターで定期的な開催をできるように子育て支援センターの職員との意見交換をもとにより良いマニュアルにし、継続的な活動ができるようにする。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	親子間で行うブレインジムは、実際の説明はインストラクターの貝塚さんが行うがブレインジムサークルのボランティアにも協力してもらいながら実施できるようにする。また、各子育て支援センターの方の意見等も取り入れながら進める。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		30年4 月～ 31年3 月	4ヶ所の子育て支援センターでの定期的な開催を目標に、子育て支援センターに通う保護者の方への広報を行う。	
	年 月 ～ 年 月			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
平成30年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成29年度		
実施項目名	子ども会協働事業		担当係	地域支援係	
			担当者	職名	係長
事業開始年度	平成27年度			氏名	小林一郎
根拠法令等					
プランにおける 該当項目	行動目標	5	子育て支援の促進		
	行動計画	①	子ども会活動を支援します		
現状と課題	自治会の活動で役員になりたがらないという話が聞かれる。子供会の活動は将来その地域にかかわる第一歩であるため重要となる。将来の地域を支える起点として従来の子ども会活動とは視点を変え、防災、防犯など自治会が行う地域の活動に参加しながら地域に目を向け今の子供たちが将来大人になった時、地域に関心を持ち、自分でも積極的に子供会活動や自治会活動に参加できるような仕組みを作る。				
目的 (何のために)	将来を担う子供たちは地域の中で様々な人たちの中で暮らしていることを学び、スクールガードや防災、防犯など小地域活動を支える、地域での助けあい活動に参加するなどボランティア精神も養いながら自然と地域に対する関心を植え付け、同時に子供会も積極的に参加できるよう促す。また、年齢問わずより多くの方々集えるような会に支援する。				
対象 (誰・何を対象に)	子育て世代、シニア、児童等				
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで に・どのレベル まで達成させたいのかなど)	活発に行っている子ども会を視察。自治会の協力を得て、ボランティア、自主防災会など地域での活動、地域のイベント等に参加するための仕組みづくり協力体制について研究、支援する。				
平成29年度 の実施状況	8月南町会の子ども会へ和太鼓ワークショップの案内を出し、参加協力を依頼。子ども会内で参加を募ってもらい、6名の参加があった。また、桜が丘自治会のさくら文庫より子供向けの映画上映会を行ってほしいとの要請で、常総広域ライブラリーのビデオとプロジェクターを借用して上映会を実施した。				

進行 管理	成果 状況			成果状況に対する説明	
		4月～ 3月	3	今回行った桜が丘自治会のように子供向け映画会や和太鼓ワークショップへの参加を募るなど参加協力が得られた。今後もほかの場所で同じような活動を行いたい。ほかの場所でも協力してもらえよう働きかけをする。	
	課題				
	約40ヶ所の子ども会への周知ができていない。子ども会で現在行っている行事のほかに社協との協働による活動につなげることが難しい。今後和太鼓のほか車いす体験等のワークショップ等も出前講座のように行えるようにしたい。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	福祉体験など、比較的取り組みやすい事業の紹介。福祉体験ボランティアにも協力してもらい、学校以外での子ども会の行事として行ってもらい、活動の幅を広げていく。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	子ども向け映画会では常総広域ライブラリーの所有しているリストを提供していただき、それを紹介して好きなものを借りて上映を行った。今後も様々なジャンルがあるライブラリーを有効活用し上映会を実施していく。				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		30年4 月～ 31年3 月	子供向け映画会やイベントへの参加協力を募り、協働で行事ができるような関係作りを行う。		
	年 月 ～ 年 月				
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
平成30年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成29年度	
実施項目名	子育て支援の輪づくり	担当係		地域支援係
		担当者	職名	主幹
事業開始年度			氏名	廣瀬嘉子
根拠法令等				
プランにおける 該当項目	行動目標	5	子どもたちを地域で育もう	
	行動計画	①	家族ふれあいの機会をつくります。	
現状と課題	共働きや専業主婦ひとり親といった家庭の事情にかかわらず、子育てに奮闘しているすべての家庭へ、地域ぐるみの子育て支援が必要とされている。身近なところに支援の輪が広がるよう体制づくりを目指す。			
目的 (何のために)	子育て中の親子が交流・世代間を超えた居場所づくり。			
対象 (誰・何を対象に)	ファミリーサポートセンター利用会員・協力会員、または市内の親子			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させたい のかなど)	利用会員・協力会員が魅力的と思う交流会を実施する。 また、子育て中の利用会員が参加しやすいように休日に開催を設定する。 7月に、ウェルネスプラザで親子料理講習会を開催予定。 家族とのふれあい、相互交流を目的として実施する。			
平成29年度 の実施状況	7月29日(土)にかたらいの郷にて「親子料理教室」を開催。親子2組とボランティアの合計9名の参加がありました。市の保健センターや食生活改善推進協議会の方々の協力を頂きました。子供でも作りやすいメニューを提案していただきました。メニューは揚げない酢鳥・簡単ナムル・白玉ぜんざいの3種類を作って楽しみました。			

進行 管理	成果状況評価		成果状況に対する説明	
	成果 状況	4月～ 3月	3	利用者さんのお子さんにとってはいい機会が出来たと思います。しかし、もっと多くの方に参加いただければ、利用者同士の子育て方法なども含めて、交流出来たことと思います。
	課題			
	参加人数が少ない原因を追究していくこと、そしてニーズを客観的に考えていく。また、現在の子育て世代の現状は、両親共働きで休日に親子でイベントなどに参加する時間の余裕がないとも考えられます。その中で最も興味があるテーマを考えていくことが必要であります。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	開催時期や場所、またはテーマを利用者さんやボランティアさんに聞いて取組みしていくことが必要。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	市役所にも協力を頂き、子育て支援課とファミリーサポートセンターの協働で行うことも検討していきたいと思います。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		30年5月 ～ 30年8月	利用者やボランティアからの意見を聞き、交流会の内容を検討し、企画していく。	
	30年9月 ～ 30年12月	多くの方に参加いただける様に、広報活動も十分に検討していく。		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
評価2となっていますが、取り組んだけれども実績を残せなかったということで、評価3にしていいのではないかと考えます。				